令和４年　第７回（定例）日　南　町　議　会　会　議　録（第２日）

令和４年12月８日（木曜日）

議事日程（第２号）

令和４年12月８日　午前９時開議

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

出席議員（10名）

１番　大　西　　保君	２番　岩　﨑　昭　男君
３番　櫃　田　洋　一君	４番　久　代　安　敏君
５番　近　藤　仁　志君	６番　荒　木　　博君
７番　古　都　勝　人君	８番　岡　本　健　三君
９番　坪　倉　勝　幸君	10番　山　本　芳　昭君

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 …… 淺　田　雅　史君　　書記 …… 花　倉　順　也君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	中　村　英　明君	副町長 ……	丸　山　　悟君
教育長 ……	青　戸　晶　彦君	総務課長 ……	實　延　太　郎君
企画課長 ……	島　山　圭　介君	建設課長 ……	渡　邊　輝　紀君
住民課長 ……	高　柴　博　昭君	農林課長 ……	坂　本　文　彦君
福祉保健課長 ……	出　口　真　理君	教育次長 ……	段　塚　直　哉君
教育課長 ……	三　上　浩　樹君	会計管理者 ……	長　崎　み　よ君
農業委員会事務局長	髙　橋　裕　次君	病院事業管理者 ……	中　曽　森　政君
病院事務部長 ……	福　家　寿　樹君	農業委員会会長 ……	梅　林　　操君

午前９時００分開議

○議長（山本　芳昭君）　おはようございます。

ただいまの出席は１０名です。定足数に達していますので、令和４年第７回日南町議会定例会を再開します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、タブレットの日程ファイルのとおりです。

日程第１　一般質問

○議長（山本　芳昭君）　タブレットの一般質問答弁要旨ファイルをお開きください。

日程第１、一般質問を行います。

一般質問は、通告順にこれを許します。

１ページ。

３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　前町長の継承から始まった１期目も、残り僅かとなりました。２期目、共創・協働で進むまちへを掲げられた中村英明町長の新たな町政が始まります。

重点施策について質問します。１、１期目も終盤、ラストスパートであります。現在の思い、そして、日南町長としてこれからの４年間をどのようにリーダーシップを取られるのかを伺います。２、重点施策、マニフェストにどのように取り組まれるのか伺います。

次に、教育長に質問します。

外国語教育推進事業について。１、シアトル派遣再開への決意と思いを伺います。２、小・中学生の派遣から一歩前進した交流事業も進める必要があると思います。見解を伺います。

新設スポーツクラブについて。日南スポーツクラブ（仮称）の設立に向けた取組について伺います。

以上、よろしくお願いします。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　櫃田洋一議員の御質問にお答えしますけれども、２点目の外国語教育推進事業と３点目の新設のスポーツクラブにつきましては、この後、教育長のほうから答弁をさせます。

まず、重点施策について、現在の思いと、これからの４年間をどのようにリーダーシップを取るのかという御質問でございます。

これまでの４年間は、まずは、前町長から受け継いだ施策の充実を図ってまいりました。また、令和元年度にＳＤＧｓ未来都市の選定を内閣府から受けたのを皮切りに、将

来を見据えた林業アカデミーの事業推進、あるいはＪ－クレジットの取引のさらなる推進、幼少期からの教育を進めるため、保育園から認定こども園への移行、デジタル化を推進していくための情報基盤となりますタウンズネット光化事業の実施、地域経済循環を図るためのたったもカード導入、移住定住、空き家の利活用、観光のさらなる推進を図るため、一般社団法人山里Ｌｏａｄにちなんを設立しました。また、庁舎内への地方銀行を設置するなど、私自身も現状課題に対し、あらゆる分野において将来を見据えた独自の施策を行ってまいりました。また、様々な形で新たな種をまいてきました。

今後４年間では、共創と協働で進むまちを合い言葉に、選挙公約にも掲げさせていただきましたけれども、地方創生の推進、資源の活用、町民の健康づくり、教育の充実と子育て支援強化、安心安全のまちづくり、行革の推進と人材育成の６つの政策を柱として、未来につなぐまちづくりを、各議員はもとより、町民の皆さんと共に進めてまいりたいと思っております。

次に、重点施策、マニフェストにどのように取り組むかという御質問でございます。

先ほど述べた公約、いわゆるマニフェストは、今後の町のありようを決める大きな事業となってまいります。率先して推進することはもちろんでありますけれども、重要なのはみんなで一緒に考えること、そして、それを行動に移すこと。その結果、町民の皆さんがこの町に誇りを持ち、生活もより豊かに、より幸せになれる、そのような未来を目指し、まちづくりを進めてまいりたいというふうに思っております。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、２件目の外国語教育推進事業と３点目の新設スポーツクラブにつきましては、この後、教育長のほうから答弁いたします。

以上で終わります。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　櫃田洋一議員の御質問にお答えいたします。

２、外国語教育推進事業について。

①シアトル派遣再開への決意と思いについての御質問ですが、コロナ禍で、令和元年度から３年間、中止を余儀なくされてきた事業であります。今回、渡航制限緩和を受け、ようやく派遣を再開できる見通しとなったことを、まずは大変喜んでおります。特に令和元年度に派遣予定だった生徒については、様々な準備を進めていた中での中止でしたので、今回、高校生となった生徒も含めた派遣が実現できたことは、大変意義深いと思っております。また、保護者や先生方の後押しもあったことと思いますが、コロナ禍が終息したとは言えず、不安がある状況にもかかわらず、想定以上の生徒が参加を希望してくれたことも大変すばらしいことだと思っております。

海外派遣事業は、グローバル化が推進する中で、国際感覚を身につけた人材を育成することを目的としていますが、この目的は事業開始当初よりさらに重要性を増しているものと思っています。国際的な問題は日々起こっていますし、日本に多くの外国人が訪

れたり、住んだりすることも増えています。よき隣人として互いの文化を尊重することは必要不可欠です。さらに、自らの活躍の場を外国に求める人も増えていると思います。面接をした際には、こうした社会の変化を踏まえ、国際人として成長するためのきっかけにしたいという声が多く、どの生徒も海外派遣の意義をきちんと捉えていることが心強く感じられたところです。本来でしたら参加者を選抜するところですが、今年度は高校生の参加もあることから、派遣人数の増員ができないか検討してきました。幸い、現地コーディネーターからは、５名程度の増員は対応可能との回答を得ましたので、今回、希望者全員を派遣するための補正予算をお願いしているところです。

生徒には、現地に行かなければ感じることができないものを、五感をフルに使って味わってもらいたいと考えています。また、そうした経験が、日南町に帰ってきたとき、日南町のよさを再確認することにもつながるものと思います。また、外国に出かけ、ホームステイ等にもチャレンジしようとすることは、大変勇気の要ることです。こうした挑戦意欲や克己心といったものは、本町の教育で目指している非認知能力の一つでもあります。今回派遣する生徒の姿が、他の児童生徒にも波及し、生き抜く力を身につけていくことを期待したいと思っています。また、今回こういう御質問等、あるいは私、初めて面接等々を行ってきたんですが、改めて私たち大人が子供の背中を押していくことが大切だなというふうなことを感じたところです。

次に、②小・中学生の派遣から一歩前進した交流事業も進める必要があると思うが、見解を伺うとの御質問ですが、コロナ禍以前は毎年シアトルから中学生が来町し、小・中学生と交流したりしていました。水際対策が緩和され、現地の学校の先生から、来年度は必ず日南町に行きたいという意向を聞いております。

シアトルでは、生徒がホームステイすることでアメリカの文化にじかに触れますが、シアトルの生徒にも日南町でホームステイをしてもらうことで、お互いの文化をより深く知ることができ、交流もより深まると考えます。また、今年の９月に、中学校ではインターネットを使ってシアトルの学校と交流を行いました。面識がない中での交流で、お互いに手探りの交流でしたが、大変よい経験になったようです。ウェブ会議なども一般化しましたので、インターネットを使った交流も以前よりも容易に行うことができると思います。相互の訪問やインターネットでの交流など、様々な形の交流を進めることによって、外国への関心や英語力もさらに高まるものと期待しております。

続いて、３番目、①日南スポーツクラブの設立に向けた取組についての御質問ですが、総合型地域スポーツクラブは、子供から高齢者まで、それぞれの嗜好やレベルに合わせて様々なスポーツに参加でき、地域住民により、自主的、主体的に運営されるスポーツクラブのことを言います。これまで本町にこうした総合型のクラブはありませんでしたが、現在、庁内の有志が令和５年度からの活動開始を目指し、クラブの設立準備を進めています。本年度中に設立総会を開催するとのことです。将来的には地域の皆様による自主的、主体的な運営がなされることが理想ですが、初期段階においては活動や広報等

に行政からの支援や、そのための予算措置が必要ではないかと考えています。

クラブ設立後の活動として期待されるのは、第１に、ニュースポーツの普及推進です。モルックやボッチャなど、運動能力や年代、障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめるニュースポーツに町民の皆さんが触れることのできる機会を増やし、継続して活動できる場を提供していきたいと思います。ニュースポーツの普及推進をクラブの活動の核としていただくに当たっては、クラブへの具体的な支援として、スポーツ推進員の活動に関する事務の委託を検討しています。現在は、教育課がスポーツ推進員の派遣調整等を行い、ニュースポーツやスクエアステップの指導を行っておりますが、指導者の調整、報酬の支払いの事務手続等をクラブに行っていただくことで、クラブの自立的な運営やスポーツを楽しみたい町民の受皿としてのクラブの実績につながっていくものと考えております。やがては、子育て支援センターや高齢者施設等、これまで関わりの少なかった場所への出張指導、気軽に参加できるスポーツイベントの開催など、多くの町民がスポーツを行うきっかけをつくっていただければと思っています。

第２に、ウオーキングの普及推進です。運動の負荷も少なく、特別な用具や技術も必要のないことから、よい意味でハードルが低く、町民の健康づくりに寄与できると考えております。現在もノルディックウオークの活動がありますが、さらに町内外の名所を渡り歩くスタンプラリー、あるいは森林ウオーキングなど、観光や林業など他分野の視点も取り入れたイベントを実施していただき、町民の健康、体力づくりや、そのきっかけづくりにつなげてもらいたいと思います。

初年度、または設立後二、三年は、現状の組織体制で実施できることから取り組んでいただくことを想定していますが、将来的にはクラブのＮＰＯ法人化を目指し、地域おこし協力隊によるクラブ運営職員の雇用なども検討したいと考えています。組織体制が充実した際には、専門的な講師による定期的な講座の開催、中学校、部活動の外部指導、各種競技の指導者の発掘、育成、体育協会の運営、施設管理など、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティーの核としての役割を果たしていただきたいと考えております。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　中学校２年生の皆さんが傍聴に来られていますので、教育長への再質問から行いたいと思います。

シアトル派遣事業は日南町の特筆すべき事業であり、とても重要であると思います。コロナ禍の現在で、それで、先ほど教育長おっしゃいましたけども、多くの参加希望者があったことというふうに言われますが、その前に、現時点で、教育長、再開をする思いというか、なかなか決断は難しかったんではないかと思うんですが、その本音のところをちょっとお聞きしたいんですが。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　9月、夏休み以後ぐらいから検討してきた部分があります。なかなかこのコロナが終息しないという部分からいえば、どうなのかなというふうなことも思っておりました。今年もやめなきゃいけないのかなという思いもありました。ですが、政府自体が少しずつ緩和していき、そして、相手の国でありますアメリカ、あるいはシアトルの内情も聞くと、非常に緩和されて行きやすくなったというふうなお話を聞くと、やはり子供たちをシアトルに派遣してやりたいなという思いが強くなりました。

先ほどもお話ししましたが、小学生から中学生にかけての応募でしたけれども、今回、中学生の皆さんが主でしたが、そういった中では、やっぱりそういう希望してくれた子供さんの思いに、一つ、どう言やいいでしょうかね、かなえてあげたいという思いというのが徐々に深くなったというふうな思いであります。また、一番大きいのは、やっぱり令和元年度に応募してくれた当時の中学生、今、高校生の2年、3年生ですけれども、そのうち１０人のうちの8人が行きたいというふうな思いというのを語ってくれたというところっていうのも、非常に後押しをしてくれた一つだというふうに思っております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　思いがしっかり伝わりました。

教育長のおっしゃっている非認知性能力というのがあります。協調性とコミュニケーション能力というのをさらに育むことができると思うんですけども、この辺りはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　おっしゃるとおりだというふうに思います。まず、コミュニケーションからいえば、面接したときに、英語で、何とか自分の英語が通用するかなというふうな思いというのもありました。いや、なかなか難しいなというふうな感じの答弁もあったんですが、いや、身ぶり手ぶりで何とか伝えたいというふうな思いというのは非常に伝わりました。それだけやっぱり英語力がなくっても、自分の思いというのが強いなというふうなことも思いました。ですから、そういうところっていうのがやっぱり大事だなというふうに思います。日本人同士でもなかなか日本語が通じない部分というのもあるんですが、そういう思いというのは、やっぱり対面して感ずる部分だというふうに思います。今、ウェブでやるっていうことっていうのも、簡単にはできるんですけれども、最終的にはやっぱり対面でのコミュニケーション、それがやっぱり思いが通じ合うかどうかっていう部分が非常に大きいのではないかな、そこはやっぱり大事にしていきたい部分だなというふうに思います。これからの社会を担う中高生にとっては、そういう部分というのは、コミュニケーションっていえばそこが大事なことですし、町長の中にもありましたが、協働という言葉からすれば、やっぱりそこが大事だと思います。１人ではなかなかできないけども、仲間と関わり合って、コミュニケーションを通

じて一つのことをつくり上げていくっていうことっていうのが、これからの青少年にとっては一番大事なことだというふうに思います。そういう点では、外国の人たちと一緒になってやっぱりつくり上げていくっていうことっていうのも大きな力になるのではないかなというふうに思います。また、そのほかのことについても、やっぱり英語ができんけんというわけにはなかなかならない部分もあるので、一生懸命やっぱり勉強してもらうっていう、その意欲づけの一つにもなるんではないかなというふうなことは思っておるところです。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　さらに実体験をする、本物を見せるというふうにもおっしゃってました。５泊７日の日程で考えておられると思うんですけども、過去の例でいえば、大体土日がホームステイに当たってます、２泊３日ぐらい。これはある程度、スケジュール的な予定っていうのは決まっておるんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　決まっております。先ほど言われたのが原則というか、そのように聞いております。土曜、日曜の２泊３日がホームステイというところで、各家庭に入って、分からない英語を聞きながら、そして、こっちの思いを単語を並べながらでも通じ合う、そういったコミュニケーションの場が、そのホームステイ、２泊３日の中には詰め込まれていくんではないかなと、そこでまた自信が湧くんではないかなというふうに思いますし、その自信が今度は友達に伝わっていくんではないかなというふうなことは期待してるところです。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　事前の準備も非常に大切だと思います。生徒、子供たちの準備、そして、引率者の準備はどのようにされてますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　三上教育課長。

○教育課長（三上　浩樹君）　事前の準備につきましては、派遣者については、主に中学生になりますけれども、今後、ＡＬＴ等に協力いただいて、英語の学習等を行う予定にしております。また、１２月の終わりには保護者も含めた説明会、それから、派遣のための手続を進めるということで、航空会社あるいは現地コーディネーターにもウェブで参加していただいて説明をいただいて、準備を進めていくということになっております。また、引率については、まだ誰がということは正式には決定しておりませんが、同じく手続を進めていただくように説明をしてまいりたいと考えております。先ほどホームステイの話もありましたけれども、現地のホストファミリーとのマッチングもこれから進めていくことになるかと思います。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　ホームステイ先はいつ頃決まるんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　三上教育課長。

○教育課長（三上　浩樹君）　恐らく１月ぐらいには現地のホストファミリーとのマッチングが大方決まるものと考えております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　そしたら、それから、それぞれの家庭がホームステイ先と連絡、メール等のやり取りっていうのはできるのでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　三上教育課長。

○教育課長（三上　浩樹君）　可能かと思います。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　ホームステイ先のホストファミリーの方が予定を一生懸命考えられてると思います。ただ、やはり、逆に子供たちの希望もある程度は逆に聞きたいんじゃないかと思うんですけども、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　三上教育課長。

○教育課長（三上　浩樹君）　議員おっしゃられるとおり、事前にそういった交流ができれば。今までは現地に行って初めて顔を合わせて、なかなか最初のコミュニケーション取るのが大変だったという話を聞いておりますので、事前にそうした交流、あるいは打合せみたいなことができれば、より交流が深まるものと考えておりますので、現地のほうと検討してまいりたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　以前お聞きした中で、建築に興味があるので建造物を見たいというお話がありました。集団行動ではありますが、個も尊重する、その柔軟性というのはあるんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　現地のコーディネーターとは先日もお話をしましたが、こちらの希望をなるべくならかなえてあげたいというふうなことや、どういうんでしょうかね、社会科見学みたいなことも計画しておられますので、その中の一角にそういうふうなものっていうのも入れてもらえる可能性というのは大いにあるかなというふうに思います。シアトルというところは大きな大手の会社がたくさんあります。中学生でも知ってるようなソフトの会社、マイクロソフトだとか、あるいはボーイング社だとか、そういった大きな会社もありますので、そういったところにも入らせてもらえるというふうなことも聞いていますし、また、今言われるような建造物に興味があるお子さんに対しては、そういう部分っていうのも大いに中に組み込んでいってもらえるようなことっていうのも話ができればなというふうには思います。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　シアトル派遣事業は、学校教育のプログラムでもありますけども、ただ、それだけではなくて、町を挙げてのやっぱり国際交流をするべきであると思います。この辺りのお考えはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　そういったこともこれからは考えていかなきゃいけない部分かなというふうなことも思います。私、来年度は、ここに2年生いてくれるんですけれども、来年度、7月頃にシアトルから中学生がやってまいります。そのときには、ぜひ私は、子供たちの企画で、今までは教育委員会や学校の大人の考えで、こんなふうなことをしたほうがいいんじゃないっていうふうなことっていうのは提案があって、そういうふうなことっていうのをやってきたような気がしています、そうでなかったのかもしれませんが。そうじゃなくって、やっぱり生徒さん同士が例えば日南町に来る2泊3日の中に、こんなことをして一緒になって物を作ってみるとか、あるいは一緒になって一つのことをやり遂げるんだというふうなことの思いっていうものを企画として出していただいて、それが、本町に来られたときに、そういったことができるような体制っていうものも考えていきたいなというふうなことも思います。そのためには、やはり相手との交渉みたいなものありますので、それはやっぱり、毎日というわけにはなりませんし、毎週というわけにもいきませんが、定期的にシアトルの中学生とのウェブ会議みたいなものもできるんではないかなと。それによって、本町に来られたときには、もっと充実した活動ができるのではないかなというふうなことは考えています。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　非常にいいと思います。自らやっぱり企画して行うという、ぜひ育んでいただきたいと思います。

　私は、国際交流の母体も必要であると思います。以前、ＮＩＣＥ、ニチナンインターナショナルカルチュラルエクスチェンジという団体がありました、日南町国際交流協会です。ただ、行政や企画課から手を離れて民間に移行すると、なかなかやっぱり活動ができない。なので、やはりそれはそういう組織もつくって、それで、強制ではないですけども、過去に参加された方がそこに加わって交流会があったりですとか、そういった会があって、ぜひこの日南を盛り上げていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　大賛成であります。以前はそういった団体があって、活躍してもらってたというふうに私も感じています。本町でも、このＣＳサポーターの中にも入って、そういう部分では活躍したいなと、活動したいなという思いを持って入っていただいた方もおられます。ですが、なかなかそういうチャンスがなかったという部分からいけば、そういう方々の活動の場、あるいはこれからの外国との国際交流の考えを、大いにそういった方々に、町民の皆さんに発信していただける場でもあったり、あるいは企画であったり、にぎわいの大きな柱にはなるんではないかなというふうなこと思いますので、そういったことは考えていきたいなというふうには思います。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　さらに、やはり姉妹都市、あるいは姉妹校締結くらいまでは、進んだ事業になってほしいと思います。以前、ケロッグミドルスクールとの姉妹校はどうですかって言ったときに、担当者の異動でなかなかできないというお話もありました。シアトル出身のＡＬＴも過去に何人か来てます。ですから、やはり一歩前進した事業へちょっと高めてほしいというか、発展してほしいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　そういったこともやっぱり考えていく必要あるなというふうに私も考えています。今、本町に来ているティモシーもシアトルです。以前からずっと、シアトルの出身のＡＬＴということで、こちらのほうもお願いをして来てもらっていますので、そういうやっぱり、どういうですか、関係づくりっていうものができやすいというふうなことも思いますので、ぜひそういった、大きな、段階を追いながら一つ一つやっぱりやっていく、国際交流のことをやっていくっていうことは考えていかなけりゃいけないんじゃないかなというふうなことは思います。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　シアトルに限らず、やっぱり国際交流を推進していっていただきたいと思います。

　一つの例ですが、滋賀県の琵琶湖はオーストリアと形が似てる、うり二つって言われてます。この後、地図を見ていただければ分かるんですが。ただ、それがきっかけで交流が発展したという例もあります。ですから、何かシアトルに限らず、ちょっと行っていただければと思いますが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　シアトルばっかりじゃなくて、今、本町でいえば、モンゴルとの交流もやっています。先日は、モンゴルの料理を食べるというふうな給食を出していただいたりしました。あるいは、その日にはモンゴルの日本人学校の生徒さんと交流を持つ、ウェブで持つというふうなこともありました。そういったところっていうのも１つずつやっぱりクリアしていって、ここというふうなことっていうのはなかなか難しい部分あるかもしれませんけども、今、関係をつくっているシアトルだとかモンゴルだとか、そういったところとは大いにこれからも関係づくりを深めていきたいというふうな思いはあります。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　次に、日南スポーツクラブ（仮称）についてなんですが、以前の説明で、サポートをしていくというお話でした。国際交流もそうですけども、行政から手が離れるとなかなか有志だけでは維持存続できないです。１２月６日の日本海新聞に、県は運営の支援などをする考えを示したとあります。教育委員会がやはり主導して、スポーツ推進員も中心になって、町長の言われる協働で進む町であるべきではな

いでしょうか、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　そのとおりだと思います。まずは立ち上げていただくっていうことを大前提にしていますので、その後については、先ほども答弁したように、教育委員会事務局のほうで後押しをする、あるいは事務的なことが三、四年は続くかなというふうなことは思っていますが、そういう中を、少しずつ大きくしていきたい、組織的に大きくしていきたい。先ほども述べましたように、なかなか事務的なことっていうのを１人でやるってことっていうのはなかなか大変だというふうには思いますが、ぜひ地域おこし協力隊で、スポーツのそういった分野で活躍したいという思いのある人をぜひ募集して、その方を中心にして運営していただくような組織体制をつくっていきたいなというふうに思います。

最終的には、スポーツ推進員ばっかりじゃなくて、町内の方々、手を挙げていただける方々であるとか、あるいは体育協会の方々とか、そういった方々にも協力を得ながら、組織的なものについては大きくしていって、事業としても、町民の健康寿命を延ばすための一つの策として、いろんなスポーツが日南町でもできるよと、あるいは他町に行ってでも一緒になってできるような仕組みっていうようなものも考えていけたらいいなというふうなことは思っております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　町内のスポーツ組織との関わり方をどのようにお考えになるのか。金銭的な負担であったり、動員的なやっぱり負担があれば、喜んで入会っていうのがなかなかしにくいと思うんですけども、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　今現在でもつくっておられる団体は、ほぼ会費制でやっておられるというふうに思います。その会費を、私はスポーツクラブのほうにそのまま出していただくようなことだとか、あるいはそれを減額した形でもいいですし、そういうのを一つの財源としてスポーツクラブを運営していただくっていうことも、一つはあるのかなというふうなことも思います。もちろん町としても、そういった部分での金銭的なバックアップはしなきゃいけないというふうには思いますけれども、その中でやっぱり、それこそさっき言いましたように、スポーツクラブの担当者等々が、運営する方々が試行錯誤していただきながら、いい運営の仕方っていうものを考えていただければありがたいなというふうに思います。それがやっぱり長続きするもとなのかなというふうなことも思っておるところです。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　教育長は先日、スポーツは楽しいよという環境をつくりたいとおっしゃってました。スポーツの楽しさを考えたときに、やはり勝つこと、それから得点を入れること、例えば市民マラソンみたいな完走すること、登山のように登頂

することもありますけども、基本的にはそのために苦しい練習に励んでます。どのような環境をつくりたいんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　今言われたことっていうのは全て当たってる部分ではないかなというふうなこと思うんですが、スポーツをする環境づくりという部分でいえば、やっぱりやってよかったなと思ってもらえる部分というのが大きいではないかなというふうに思います。先ほど言われたように、今から高齢者の方々が苦しい思いをして、１番を取るぞというのはなかなか難しい部分があるとは思うんですけれども、やはり日々やってよかったなと、続けてよかったなって思ってもらえるような仕組みといいますか、運営の仕方といいますか、そういったものっていうのが大事に、これからはなってくるんではないかな。特に本町でいえば、高齢化率が高いところですので、お年寄りに、グラウンドゴルフなんかは、そういう部分では順位を争っておられて、そういう部分で非常に、どういいましょうか、技術を伸ばさにゃいけんなという思いを持っておられる方も多いというふうには思いますけども、そうでない、ウオーキングだとか、そういった部分では、やはりやってよかったなと、これからも続けていかにゃいけんなというふうな、やっぱり環境にしないと、健康づくりの一つにはならないのではないかなというふうには思います。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　先日の説明に対して、様々な意見がありました。まずは、試行錯誤しながら健康寿命を延ばすことのための一役を担って、それで町の活性化につながってほしいと思うんですが、いかがでしょうか。先ほどもおっしゃいましたけども。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　そのとおりであります。子供から高齢者まで、スポーツに親しむという部分では、そういった組織なりでバックアップしていって、健康づくりに携わるという部分というのが一番大きな目的だと私も思っています。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　次に、町長にお聞きします。

大変聞きにくい質問で、答えにくい答えであると思いますが、ずばりお聞きします。１期目の反省点はありますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　反省点といいましょうか、御案内のように、私も副町長、その前はやっておりました。という経過が８年ありますので、やはりそういうところを踏まえながら、トップに替わったということがありますけれども、やはり副町長の職と町長の職っていうのは違いがあるというふうに思ってまして、その違いが分かった期間っていうのが当然ありますので、そういった意味で申し上げると、個別な事業的っていうところではないにしても、やっぱり少しは足踏みした期間もあったのかな、あるいはその

期間が、足踏みって言いましたけど、確認する期間だったのかもしらんなという反省は持っております。ですから、ちょっと個別の事業で、この事業がどうこうっていうことではなくて、そういうことを感じた期間があったということを、今改めて振り返ってみて、あったのかなというふうには感じてるところであります。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　前町長からの継承した4年間であったと思います。どの程度継承し、どの程度達成されたとお思いでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　全ての課題が解決したというわけではもちろんないですけれども、それなりの成果が出てるっていうふうに私自身は思っています。先ほど申し上げましたけど、例えば林業アカデミーにしても、計画時点では前町長の段階でしたけど、実際の開設からの期間は4月からでしたので、私のほうからスタートという話でありますので、現時点では、既に皆さん方、御案内のように、それなりの成果があったというふうには思っております。また、継承からいえばそうですけれども、体育館あたりも、日南体育館も計画の段階は前町長だったというふうに思ってますし、実際の建築につきましては私の段階っていうところもありますので、そういった大きな面でいきますと、それなりの、私は成果を上げてきたというふうには認識しております。ただ、一方では、まだまだ課題があるっていうのは当然承知しておりますので、そういったところにつきましては、また引き続き課題解決に向けて全力を挙げたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　現在、1期目のラストスパート、そして、2期目のバトンゾーンであると思います。次の4年間へ向けての決意、先ほども少しおっしゃいましたけども、決意をちょっとお伺いしたいんですが。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　この令和の時代に入りまして、ちょうど今は新型コロナだとか、物価高騰っていうところが目の前の大きな課題だというふうに思っておりますが、一方で、どういいましょうか、社会全体が取り組まないといけない、例えば脱炭素だとか、そういったところもあるというふうに思っておりますが、本町におきましてはやはり地方創生っていうのを推進っていうのが、私の中では柱を置きながら、それを進めるためには、やはり申し上げていますように、共創・協働で進まないといけないという方策の中で進めていきたいというふうに思っております。特に今、今回マニフェストにも上げておりますけども、地方創生を推進するに当たって、やはり、まずは私が思ってるのは、住んでる町民の皆さんが誇りを持てる、そんなことを感じていただくっていうことが大事だろうというふうに思っております。そうしないと、いわゆる子供さんに対して、日南町で将来社会人として働け、あるいはUターンしてこいよっていうようなことが言える大人の皆さんになっていただかないと難しいんだろうというふうに思っております。

そのためには、やはり教育であるとか、医療であるとか、そういったところの充実っていうところは必要不可欠だろうというふうに思っております。最終的には総合的な力量っていうのがやっぱり求められてるっていうふうに思いますが、大きく目の前の話をすると、そういった観点が必要ではないのかなというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　先ほど、新たな種をまいてきたとおっしゃってました。どのようなものでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　どういいましょうか、先ほど申しましたように脱炭素への取組っていうところだとか、総合して申し上げると、ＳＤＧｓの未来都市の選定というのをいただいておりますので、そういったことであるとか、先ほど申し上げましたように教育部門だとか、いわゆるこれからは、またデジタル社会というふうに言われておりますので、そういった光化の事業もさせていただいております。そういったところを新たな種だというふうに思ってますし、また、先ほど答弁させてもらいましたけど、移住定住の関係も、より推進がしやすい形の法人化に向けて取り組んできておりますので、ですから、本来はこれからというところがたくさんあるというふうに思っておりますが、いわゆる、こういった地方の中で、今まではどちらかいうと暗い感じのイメージがあったというふうに思っておりますが、私は逆に、これからは様々な、例えば脱炭素だとか、そういったところも含めていくと、どういいましょうか、今、回帰現象とかいろんなことを言われておりますが、そういった魅力が新たにつくれるんではないのかなというふうな期待感も持っていますし、そういったことを発信しながら、地方創生への進展に図っていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　共創と協働というのは、共につくり上げて、協力しながら働くということでしょうか。ちょっと説明いただきたいんですが。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　そういった、これから推進するに当たって、やはり多くの皆さん、関係機関、例えば、官、官はうちですけれども、産業の皆さんだとか、大学だとか、金融だとか、そういったところの様々な分野の皆さんの専門的な知識、あるいは技術っていうものを取り込んでいくっていうことが大事ではないのかなというふうに思っております。なかなか時間だけで物事を解決するにはやっぱり限界があるというふうに思っていますので、多様な意見をいただきながら、あるいは指導もいただきながら、あるいは場合によっては財源的な話もあるではないのかなというふうに思っておりますが、そういったところを一緒に考えながら協働で進めていくっていう考え方っていうのが、これからの一つの在り方ではないのかなと、そういうのを模索しながら挑戦をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　先ほども6つの施策を述べられました。その中に地方創生の進展、デジタルの活用を推進するというふうに、デジタルという言葉も何度か出てきました。町長は、持続可能なまちづくりとして、地方創生の進展、デジタルの活用を掲げておられます。それで、現在も庁舎内の交流ホールでマイナンバーカードの申請受付であったりとか、たったもカードが利用できるようになって非常に便利になりました。ぜひこの機会に全国一の取得率を目指していただきたいんですけども。

　デジタルでとても大切なことがあります。携帯電話の不感地帯、不感場所というのが町内の事業所でもあるんです。石霞渓とか出立山というのは仕方ない部分もあったりはしますが、やはり入ってほしいんではありますが、ただ、町内の事業所で不感地帯っていうのは、これはぜひやっぱりなくすべきではないでしょうか、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　町内におけます携帯電話の不感地区につきましては、以前から一般質問でもいただいておるとこでありまして、方針として、私のほうも国の補助金あたりを活用しながら強力に進めていきたいという答弁をさせていただいておりますので、キーワードは、補助金とかそういうことではなくて、やっぱり携帯電話の会社の皆さんの実際の動きにつなげるっていうことが一番重要であるというふうに認識しておりますので、そういったところができるように、私自身からもそういった民間の皆さんへ、あるいは国を、あるいは県を通じてでも、そういった取組が隅々までできるっていうことをやっぱり、どういいましょうか、力を注いでいきたいというふうに思っております。国のほうもデジタル田園都市構想っていうところの中で、全国の津々浦々、携帯電話がつながるっていうことを表現されておりますので、それの実践を、現状を伝えながら、それができる形っていうものをやっぱり模索を強力にしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　この不感地帯をなくすというのは、ぜひやって、進めて、町内の事業所、全てやはり入るようにしていただきたいと思います。

　介護福祉施設の人材不足に、交流のあるモンゴル人材をという発言も、先月、選挙期間中であったか、その後であったか、ちょっと町長の口から私、お聞きしました。私はただ、ちょっと難しいように思うんですね。まず、モンゴルという国の文化が、介護や高齢福祉施設のようなものはほとんどなく、少しはあります。ただ、ほとんどないので、自分の家でやっぱり家族が世話をする、面倒を見るというようなお国柄です。そして、外国人技能実習生として来日して、学んで、働いて、ただ、いずれ帰ったときには、今度職がないっていう事態も起こります。なので、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御案内のように、議員おっしゃられましたとおりっていいまし

ょうか、モンゴルの国では平均寿命が６０過ぎっていうふうに聞いております。最近は少し延びているのかもしれませんが。そういった実態がある中で、日本のように平均寿命が男性でも８１歳とか、そういう状況ではないというふうには思っておりますが、ただ、これからの社会については、やはり医療が進む中で寿命が延びるってことだってあるんだろうというふうに思ってます。ですが、最初の段階では、やっぱり、どういいましょうか、技能実習という形になるのかもしれませんが、やはり帰っていただく中で、そういったモンゴルの国内でもそういう需要が、新たな需要っていうのが生まれてくる可能性が、私はあるというふうに思っていますので、そういった意味も含めて、これからなかなか、コロナの中で動きができなかったっていうところはもちろんありますけれども、そういったところができるためにはどうしたらいいかっていうことを具体的にこれからも模索をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　例えば、そういう介護とか福祉の世界へ、ベトナム人、中国人という、モンゴルでない新たな地域のお考えはありませんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　モンゴルだけに固執してるわけではないんですけれども、国内では、例えば介護分野における専門学校の皆さんの中で、やっぱり外国人の方が勉強されているケースっていうのもありますので、そういったところは、どういいましょうか、つながりの中で来ていただけるようなら、そういった仕組みを整えていきたいというふうには思ってますので、特別に介護分野でモンゴルでなけないけんということではなくて、多様な外国の皆さんのそういったチャンスがあるようだったら、そういうことは、どういいましょうか、国を分ける必要性はないっていうふうに思っております。そういう専門学校ですので、やはり日本語のほうもそれなりに対応ができてるっていうふうには思っておりますので、そういった新たな、どういいましょうか、採用っていう形は、閉ざすのではなくて、門戸を広げていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　最近、町長の述べられてる重点施策の中に、基幹産業の所得向上と、それから、日南病院の建て替え問題があります。この後、２人の同僚議員が質問しますので、ちょっと１点だけ。日南病院の建て替え問題の構想だけ、ちょっとお聞きできますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　医療っていうか、日南病院につきましては、国の方向性も踏まえて、以前から改革プランというのをつくってきました。それを更新、更新というか、年限に伴って更新してきた経過があります。あわせて、一方では、やっぱり建物っていうのが、今の現時点での建物も４９年経過するような状況になっております。建物もそうですが、特に、いわゆる設備の関係っていうところが老朽化してきてるっていうこと

も特徴の一つであります。そういったことの背景も含めて、人口減だとか、そういったところも含めて、どういいましょうか、トータル的にやっぱり改めて考え直す、あるいは建物も含めてですが、その必要性が到来してるというふうに私自身が思ってますので、そういった意味で、これから、どういいましょうか、先般のシンポジウムをいただいた先生方も含めて、これからの日南病院の在り方っていうのの姿を、そういった検討する姿につきまして着手していきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　共創と協働で進むまちと題された新たな中村町政、少しでも町が活性化し、住んでる人が誇れる町を目指して、まちづくりに取り組んでいただきたく思います。

以上で私の一般質問終わります。ありがとうございました。

○議長（山本　芳昭君）　以上で櫃田洋一議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　ここで暫時休憩をいたします。再開を１０時１５分からといたします。

午前１０時００分休憩

午前１０時１５分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き、一般質問を行います。

１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　このたびの町長選挙において、候補者同士の政策論争ができたことは大変よかったと思います。中村町政２期目の取組の施政として、強い信念を持って、町民のために取り組んでいただきたいと強く希望します。

では、一般質問に入ります。

このたびは３点について質問いたします。１点目、セントラル農場の環境問題、２点目はＪ－クレジット販売について、３点目は、環境基本計画作成についてであります。

まず、セントラルファーム農場の環境問題についてですが、去る１１月１１日の全員協議会において、副町長より、土地購入交渉の状況について厳しい状況であると説明がありましたが、町長は、被害を受けている農家及び下流域の霞地区の方々に対して、どのような思いなのかをお伺いします。

そして、今後について、町としてどのような対応を考えておられるのかをお伺いします。

次に、Ｊ－クレジットの販売についてですが、日南町森林組合からの2,０００トン購入はいつされたのかをお伺いします。

次に、来年度、新たなＪ－クレジットを環境省に申請すると９月議会で答弁されましたが、何トン申請されたのですか。

次に、CO_2トン当たりの販売単価ですが、8,０００円から１万円に戻す考えはないかを再度お伺いいたします。

最後に、日南町環境基本計画の作成についてであります。町長は、昨年３月の施政方針でグリーンドリーム計画作成を発表されましたが、現在の進捗状況はどのようになってるのかお伺いします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　大西保議員の御質問にお答えします。

まず、セントラル農場の環境問題についてということの中の、被害を受けている農家及び下流域の農家に対しての思いについてという御質問ですが、十数年に対する苦労、苦痛は大変だったというふうに思っております。これからしっかりとした安定運営がされるよう協議し、前に進めてまいりたいというふうに思っております。

次に、今後の町としての対応についての御質問です。土地の売買を整理し、地元と協議してまいります。また、譲渡先と水質改善について協議を進めていくよう考えております。今後、以前のような水質汚濁が起こらないよう、譲渡先にはしっかりとした対策を求めていきたいと思っております。

続きまして、Ｊ－クレジットの販売についてということで、森林組合からの購入状況についての御質問でございます。９月の定例議会におきまして補正予算案を計上し、議決をいただきました。その後に森林組合と契約を行い、移転処理が完了して2,０００トンのＪ－クレジットを取得しております。これによりまして、１１月末の現在の保有量ですが、2,３３３トンとなっております。ちなみに契約につきましては、９月の１６日で契約をさせていただいております。

次に、新規のクレジットについてという御質問でございますが、新規のクレジットの申請トン数につきましては、まだ準備段階ですので、取得トン数は未定であります。できるだけ取得トン数を有利に今後の申請事務を進めるために、令和５年度の町有林の施業地などを検討しているとこでございます。そのため、令和４年度は対象地の確定と経営計画の修正を行いまして、令和５年度の町有林事業の完了後にＪ－クレジットの申請を行い、令和６年度にＪ－クレジットの取得を行いたいというふうに考えております。

次に、Ｊ－クレジットの販売単価についての御質問でございます。ＳＤＧｓの機運の高まりや、引き続きコーディネーターのおかげで販売は順調であります。購入していただいた企業は、単年度ではなく、継続して購入される企業も増えております。こうした関係性を続けたいと思っておりますので、価格の変更はせずに8,０００円で継続してまいりたいというふうに思っております。ただ、明確な基準的な物差しとなる動きがあれば、その際には検討をしてまいりたいというふうに思っております。

続きまして、環境基本計画についてのグリーンドリーム計画の進捗状況という御質問

いただいておりますが、現在、計画を策定中であり、年内には計画の素案を策定し、環境審議会で審議していただくよう進めているところでございます。年度内には完成するよう、現在、策定を行っております。また、先日、にちなん町民大学で講演いただきました歌川学さんの御協力をいただきまして、この方は産業技術総合研究所というところでお勤めでございますが、その方の御協力をいただき、計画の参考とするための御意見をいただくよう予定をしてるとこでございます。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　町長から、まずセントラル問題についての答弁いただきました。

実は、もう端的にお聞きしますので、この町長選挙の間に、町長は、土地購入については買わないという表明をされたんですが、それは事実でしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　事実であります。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　それは、町長の決断、町長は決定権持っておられますので。その内容について、庁舎内で決定、そういった協議をされて、じゃあ、こうしようと言われたのか、協議もなしに、自分としてこうだと言われた、どちらなのでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　庁舎内のほうでは協議をしておりませんが、判断材料につきましては、今までの経過、相手方の話も含めて、そういう状況を鑑みながら個人としての判断をさせていただき、といいますのが、多くの今回の選挙に絡む、どういいましょうか、住民さんとのお話合いの中で、そういった御質問っていうのがかなりあったということもありまして、そういった背景の中で、私個人が決めさせていただく方針を述べさせていただいたという経過であります。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　今まで、７月１１日に陳情が出て、もう約５か月たったわけで。その間、町の取組ずっと見させていただきましたが、町長が自ら地元の方々と話ししたのは、最初の７月１１日と、選挙で回られた１０月２２日しかないわけですが、なぜこの件について副町長からは、地元の皆さんとの、話をしましょう、しましょうと、説明しますとか、いろいろ話あったのに、唐突に、まず地元に話ししてから、町長から決断し、表明すべきじゃなかったんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　その流れにつきましては、全員協議会の中でも交渉結果を報告させていただいたり、あるいは、その前に地元にもその経過報告をさせていただいてお

ります。ですから、そういった背景を踏まえながらも含めてですが、私の考え方を固めたというふうに御理解いただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　地元は、当初どおり変わっておりません。そして、副町長は、１１月１１日の全員協議会では、一度だけ相手の会社行って、もうそこで１回で終わっとるわけですよ。強く交渉を、強い気持ちで交渉するという新聞で出ました。これ、町長の言葉か、新聞社が書いてますから、そこは言えませんが。本当に、普通、我々も一般的に言うと、営業であっても、１回行って駄目だから、引き返します。何回も何回も知恵を出して、どうしようかということやるべきじゃないでしょうか。そして、なぜ地元に発表するまでに、本当に話をして、自分としてはこう考えてるんだと、やっぱり、失礼ですけど、副町長に大きな荷物を負わすよりも、町長自らがそういった場で出て、思いを伝えてから発表されたほうがよかったんじゃないでしょうか。私の主観ですが、どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　副町長のほうにも、地元に行っていただいたときに、私の考え方っていう方向性は伝えていただいておるというふうに認識しております。ですが、どういいましょうか、そういった経過があるというふうに私自身は認識しております。ただ、今回の、数回すればいいじゃないかってお話もいただいてるっていうふうに聞いておりますが、ただ、それを回数を重ねて、事が変わるっていうことではないというふうに私が判断させていただきました。また、最大の原因っていうのはやっぱり金額だというふうに思っておりますので、その金額がどんどんどんどん下がるとか、そういうことはあり得ないというふうな判断の中での結論というふうに御理解をいただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　要するに、地元の方が、今先ほど、一番最初言われました、十数年って言われましたけど、答弁書には数十年と書いてあるんですけども、ずっと今まで、はっきり言って、町長も田んぼ持っておられるでしょう。自分の田んぼに、本当に土地、水は物すごい重要ですよ。自らのことと考えてください。今のお話でいくと、副町長から聞いた、こう聞いたって言われましたけども、地元は全くつながってませんよ。地元、今でも交渉を続けてほしいと強い思いを持っとるんですが、町長。地元に、要するに来てくれじゃなしに、行って、そこで話しすることできませんか、要するにそれぐらい重要なことだと思うんですが。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には、当たり前の話ですが、やっぱり町長の職として、町民を守る、その責任というのは私は持ってるつもりであります。ですから、そういう判断をさせていただきました。おっしゃられるように、地元のほうで、この件について

の進展、あるいは私の考えというのは伝えたいという機会を至急でもつくっていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　町長が表明されてから２週間以上たっておりますが、何ら町の動きがないということなんです。そして、議会の皆さんも、９月の後半に委員会で、議会で決議しとるわけですね。議会にも、その説明が今でもない。これは議会としてはどうなんでしょうか。というか、議会が思いを言わないけませんけど。私は、委員会で５名の方が賛同いただいて、陳情書、採択したわけです。地元にも話ししてない、議会にも話ししてない。議会は後でもいいんですけど、やっぱり地元は優先で、議会に対して説明されてない、１１月１１日、その後、１８日ありましたけども、１１日に副町長からあったわけですけども、それであれば、議会に対しても、町長自ら出てきて、こう考えてると発表する前に。その辺はどうなんですか、議会としての重みをどう受けておられるんですか、思いは。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　どういいましょうか、議会の中での陳情書の採決のときの皆さん方の意見も拝借しております。ですから、そういったことも含めて、思いにつきましては感じておりますけれども、ただ、交渉の結果の中で、町としてそれが可能かどうかっていう判断は難しいというふうに私思いましたので、判断をさせていただきます。先ほどおっしゃられるように、地元というところにつきましては、改めてになりますが、その場を設けさせていただいて、私の思いを伝えさせていただいて、前に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　もう私はずっとこれ、議員になってから８年間ずっとやっております。副町長時代からで１０年間ですね、この問題やって、今年は特に大きな変換点になりました。ちょっと遡れば、やはり上原ファームさんとずっと２年ほど前からこの問題を交渉してきて、何とか改善してほしいということで、県も調査し、やってきたわけです。そして、今年の６月、７月に売却という話が出てしまったんで。私が思ってるのは、もう、これはどうのこうの言ってもいけませんけども、一番大事なのは上原ファームさんが、知りません、もう次のとこに話をしてください、そこが一番大きなポイントだったと思うんです。まだ完全な経営権が移ってないとは思うんですが、やはり８月１７日に副町長が宮崎まで行かれて、交渉されて、もう次の会社にあとは話ししてくださいで終わってしまったわけです。僕は一番なとこは、やはりそのときに、上原ファームさんに対して、企業としてですよ、コンプライアンス、やはりある程度のところは責任持って、次の会社はどこまで調査したか分かりません。私は、通常の会社でしたら、いろんな調査した上で、ああ、この農場は難しいなというのが普通だと思うんですが、交渉段階で十数億の話が出てるそうですけども、分かりません、回答が十何、２

桁かという話でしたけども。私は交渉段階の分かりませんが、恐らくなかなか売れなかったということで、安く、これ想像です、買ってるはずと思うんですが、それはちょっと言えませんが、私はそこが６月の一番ポイントだったと思うんですよ。５月の後半に、５月に、後半ですか、上原社長自身が農場に来られた。そのときに町長は、来てくださいと、話ししましょうと言ったんが、時間がないからということで断られましたね。もうあのときは完全にほとんど話が進んどったと思うんです。やはり町の姿勢というんですか、私は、そこでやはりきちっとしてから、次のことを考えてからするんだったらいいですけども、もう後は知りませんから、次の会社に交渉してください、はい、分かりました、次の交渉はこうだと。

ちょっと長く話ししましたけども、私は一番大きなポイントは、上原ファームさんが、失礼な言葉でしたけども、売り逃げされたなという思いを持っとるわけです。そして、対策会議も全く開かれてない。今後どうするんですか。どこまでどうされようとしてるのかは、もう町長、悪いですけども、強い決定権持っておられるんで、地元の皆さんと直接話ししていただけませんか、早急に。どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　先ほど申し上げましたように、地元の皆さんにはしっかりとした話を今後、お話をさせていただきたいというふうに思っております。

議員、るるおっしゃられました。確かに私自身も同感する部分はたくさんあるというふうに思っています。今の社長に替わられたときが、冒頭、やはり施設改善をしてくださいと私のほうからも要望し、計画を立案されてたという経過は承知しておりますが、具体的には資金的なことっていうところがなかなか整わなかったということで、ずるずる来たという話は、ということではないのかなというふうに私自身も思ってますし、また、あわせて技術的なところも、どういいましょうか、最終的には整った力量をお持ちでなかったのかなというふうには思ってるところもありますが、いずれにしても、現状を前に進めるってことが大事かなというふうに思っていますので、しっかりとした次の事業者の皆さんとの、やっぱり、まずは地元と話の了解を得た上でのスタンスですけど、新たな会社としての、どういいましょうか、ヒアリングっていいましょうか、そういったところにつなげていくべきかなというふうには思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　私は、この話はもうずっとやっていたんで、事細かいこと、もうやめます。先ほど言いましたように、早急に、町長、悪いですけど、トップとして本当にしてください。副町長がどうのこうのじゃないです。やっぱり中村町長も１０年間、これに取り組んでいただいた、一番大きな、今、変換期なんで、その辺で、やっぱり強い熱意を持っていただきたいし、町長も全力で課題についてはやるということを言っていただいとるんで、それを期待したいと思いますんで、ぜひよろしくお願いしたいと思いますが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には、今回のケースについては、転換期にあるというふうに思っておりますので、そういった転換期をしっかりとした次につなげるために、私もしっかりとした意見と、そして、地元との協議に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　では、次に、Ｊ－クレジット、９月にも質問したんですけども、大変私は注目しとるんで、あえてまた今回もするんですけども、新規取得について、今先ほど説明いただいたら、来年度、６年度に最終的にという答弁でしたけども、これからいろいろ検討するんですけども、実は私、一般質問した週のときに、これもミニコミ紙なんですけど、新規取得のため、環境省に申請を行い２万トンを取得するというのが出たんです。これはどっからの情報なんでしょうか。これは町執行部が出てない限り、おかしいですよ。どうですか。

○議長（山本　芳昭君）　坂本農林課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　ミニコミ紙の内容につきましては、ちょっとすみません、私も承知してなかったんですけども、今、準備を進める中で、やはり間伐と皆伐とを今度同時に進めながら取得をしていくことになりますので、その中でどれぐらい取れるだろうかというとこは、事務レベルの中で相談はしておりました。現在、林業アカデミーの職員と一緒に協議をして準備を進めている段階で、その中で２万トンというような話があったのかなというふうに思っております。実際、この数字につきましても、具体的なものではなくて、これを逆にもっと増やすということも含めて、実際どの程度、新たな取組で取得ができるのかなというところを今審査をしてる段階ですので、報道のほうにはそのように出たかもしれませんけど、まだ具体的にそれだけ取れるということが確定したものではないというふうに御理解いただきたいというふうに思います。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　私が驚いたのは、私が一般質問したのが９月６日でして、ミニコミ紙発行されたの９月２８日で、３週間ぐらいたっとるんですけど、私もこの数字を見ましてね、えっ、もうここまで話が進んどるならば、なぜ一般質問のときに回答されなかったかなという単純な疑問を抱いただけなので、今先ほどは見込みであると、まだだ、それは理解できますんで、どれくらいかなと。今まで6,６００トン、森林さんが9,６００トンされてた、今回２万トン、多いなということを思うたわけですよ。ちょっとそれが３万トンになるかも分からないし、１万トンになるか、それは結構です。

　次に、単価のことで、私ちょっとこだわりたかったんで、私言ったときは、県のほうは１万円から１万5,０００円ということになってますと。それで、日南町では8,０００円だと、中部森林組合も１万円だということで、当然中部の、今回、湯梨浜のほうからもこちらの買っておられるそうですけども、普通であれば倉吉の隣にあるのに、なぜ日

南町と。そらこっち8,０００円だからという意味合いがあるわけですね。要するに言いたいのは、適正価格は何ぼか分かりませんよ。町長は3,０００円のところがあると言われましたけども、3,０００円はどこなんでしょうか。御存じでしたら教えてください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　単価についてという話ですが、どういいましょうか、公というか、自治体が持ってるケース、あるいは民間が取得されるケース、様々でありまして、始まったのも、うちが始まったのも平成の２５年からという状況でありまして、例えば今、改めて調査させていただきましたが、ごめんなさい、先ほどの御質問の3,０００円の話については、多分、競売という形の中で出てきた数字ではないのかなというふうに思っております。ただ、改めて今、山陰地方辺りを再確認させていただくと、確かにおっしゃられたように、中部森林あたりは１万円ですけれども、それ以外のところも、ちょっと個別的には、個別の単価は公表を控えさせてもらいたいと思いますが、8,０００円から、あるいは１万円のところから、あるいは5,０００円のところもありますし、ですから、基準が決まってないっていうのが現状であります。ですから、先ほど申し上げましたように、今までが8,０００円で販売単価を決定させていただきながら、昨年は１０３件、今年は、現時点ですが、おおむね５０件というような取引をさせていただいてる現状であります。

先ほども申し上げましたように、来年も再来年も続けたいとか、あるいは現状では、どういいましょうか、５トンだとか様々な企業の皆さんで決定をしていただいてるんですけれども、中にはそれ以下の少数のところもあります。そういった皆さんも、やはり少ないけれども、来年以降も継続をしたいというようなお考えの企業の皆さん、社長の皆さんのお声を聞くケースが多い中であって、やはり金額を変更するというのはどうかなというふうに思っておりまして、今回のこのＪ－クレジットの取組は、町としての取得っていうことはもちろんありますが、やはり企業の皆さんと一緒になって脱炭素を進める、あるいはＳＤＧｓを進めるというところの啓発的なところ、それと併せて実践というところが重要視すべきではないのかなというふうに思っておりますので、回答させていただきましたように、継続した形での8,０００円というのを今考えさせてもらっております。

ただ、答弁させてもらいましたけど、この基準額についての今後の話ですけれども、ありようの中で、ある程度基準的なところが生まれてくる可能性があるようだったら、そこは見直しする必要性は生まれてくるかなというふうに思っておりますが、現時点におきましては、変更なしで、このままの単価で進めさせていただきたいという考え方であります。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　それで、私も９月のとき、この件でお尋ねしたときに、町は最初はトン幾らだった、町長答弁されてますが、幾らでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　当初は１万5,０００円だったというふうに、私は、どういいましょうか、記憶しております。その後、変更して、こういう形にさせていただいたというふうな経過であるというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　１万5,０００円というのは全くおかしい。担当の課長さん、私は指名できませんが、正確な当初からのトン数、トン幾らだったんでしょう。これ大きな判断間違いですよ。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっと再確認しましたけど、１万5,０００円だったと、一番最初の当初はそうで、途中から１万2,０００円で、8,０００円ですか。（発言する者あり）ごめんなさい、１万5,０００円で、１万円で、8,０００円です。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　私は最初から１万円だと思っとったんですが、私も間違った質問していけないんで、議会終わってすぐに資料請求いたしました。これ建設課から回答いただいてます。最初から２年間は１万円です。その後8,０００円です。ですから、今言われた１万5,０００円から１万円、8,０００円、これは分からない。私も一番最初の初年度のときに、天皇陛下が来られて増原町長が植樹祭に出られて帰ってきた、そのとき自治会長会議があったもんで、私、自治会長だったもんで、そのときお聞きしました。こうこうこうです、４３万円こうですって。天皇陛下がずっと来る車列になるその車のCO_2量を県が買っていただいたという記憶があるわけですよ。そのときから１万円だったんですよ。今１万5,０００円、１万2,０００円というのはおかしいですよ。これ大きな、私、見て判断ミスなんですよ。どうでしょうか、確認してください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっと改めて確認しましたが、設定のほうは１万5,０００円で、うちとすれば、町とすれば１万5,０００円で設定を開始しました。その後っていうことの中で、最初に買っていただいたのが１万円か、という実態があるようでありますので、もう一度報告をさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　いや、私は設定なんて言うてない、販売価格を聞いとったわけですよ。だから、販売価格は１万円でしょう。実際に１万5,０００円で、設定は１万5,０００円でしたけど実際は１万円でしょう。だって私が言いたいのは、本当に１万5,０００円を答弁されたわけですよ。今先ほども１万5,０００円から１万2,０００円で１万となったわけですけども、当初から販売は１万円でしょう、どうですか。一番最初、道の駅できるときに道の駅は３００トンだと言うて３００万円という話でしたけど、実際は１４６トンだったんですよ。言いたいのは、今言う、何か１万5,０００円、１万

2,０００円。いやいや、要するに答弁は正確にしていただきたいんです。それ言いたいんですよ。もしあったら訂正してください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　改めてですが、単価設定は１万5,０００円です。ただ、最初に売買ができて成立したのが１万円ということでありますので、ちょっと私の説明不足だったかもしれませんが、そういう経過の流れであります。最初に１万5,０００円というのはなかなか、１万5,０００円で設定したけど、なかなか成立がしない、売れないというような状況の背景も踏まえて単価設定を下げていったというふうに御理解いただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　ということは、１万5,０００円設定したいうことは、いろんなことを考慮した上で１万5,０００円が適正であろうということで単価設定されたということですよね。でも、なかなか売れないんで実勢として１万円まで下げたということです。そして、今はもう右肩上がりで、最初の５年間、６年間本当に水平飛行でした。ところがここ３年ほど前からぐっと右肩上がりで、ＳＤＧｓになってから、なってるわけでしょう。逆に言えば、これから仮定しましょう、２万トン、令和６年でもいいです、なった場合に、１万円であれば２億円です。8,０００円であれば１億6,０００万です。それで３万トンでもっと変わります。要するに２万トンを設定したときに、失礼な言い方ですけど4,０００円損するんですよ。そして、手数料は今年から５パーを１０パーにしたわけしょう、これは銀行さんが５パーじゃ安過ぎると、一生懸命やっても。だから１０パーに上げてくれということなんで、これが最初１万円であれば１０パーまで上げる必要なかったと思うんですよ。だから、早急に単価を見直されたほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　数字的なことにつきましては、仮定の場合はそのとおりだというふうに思いますが、要は、販売に係る契約が調わなければ前に進まないということだけは言えると思います。そのために、じゃあ8,０００円がいいのか、１万円がいいのかって話です。先ほど申し上げましたように、販売の促進をするがためにということが大事だというふうに思ってますし、そして、何度も申し上げますが、立地企業の皆さんが、やはり継続した形っていうのを希望されておりますし、心構えとして持っておられるっていうことであります。そうしたことを踏まえて鑑みますと、契約件数を伸ばしていくっていうことが大事ではないのかなというふうには思っております。ですから、現時点ではやはり同額の基準を動かすべきではないというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　私も環境活動をしたときに、これは本当Ｊ－クレジットというのがあるんですけど、もともと世界で多い排水量、少ないところ、これをバータ

ーするためのクレジットだったんです。それをＪ－クレジットいう形にはしたわけですけども、企業はいろんな考え方があると思うんです。本当に環境活動されてていう場合に、今、町長、いろいろ基準があると思うんですけども、言い方悪いですけども、金額だけで来るのか、CO_2の削減量で来るのか、CO_2の計算で、例えば大きくは車、仕事で行く車と通勤の車と、あとはそこで使う電気がメインなんですよ。そういった計算した上でCO_2単価を決めて購入単価CO_2でと考えておられる企業がどれぐらいあるのか。逆に言うと、ああ、寄附したらいいんだと、５万円、したら、今簡単に言うけど４万円やったら５０トンかとかね。要するに言いたいのは、本当に環境のCO_2を計算した上で、自分とこは日南町に来る、当初ですよ、いろんなコンサルさんとの契約のときも、日南町に仕事いただいたんで、米子から車での通勤でガソリンこんだけ使うから、それをクレジットで操作したいというようなことが最初はずっとそれあったと思うんですよ。そういう会社もあれば、いや、寄附したいと、金額を寄附したい、そしたら逆算すると４トン、３トン、２トンとか、１００トンとか、ある大きなところは１００万円というのがありましたね、一番大口だと思うんですが、そこは１００万がメインでトン数は後なんですよ。だから、それから中海さん、実際契約件数によって１２キロとかね、そんなんで。そういう環境に詳しいところはそうですけども、そういった意味見て、やはり私が先ほど言いましたように、新たに２万トンを申請して２億円にするか、１億6,０００万でいいと思うか、町の森林組合、森林というか町全体の森林のために使うお金なんで、そういった面を考えて将来に向かって検討するぐらいの回答を言っていただきたいんですが。（発言する者あり）いや、本当ですよ。要するに、差額はもう4,０００万、２万トンであれば。どうでしょう、大きな金額だと思うんですが。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　契約をさせていただいている民間の企業の社長さんといろいろお話しする機会が、この件について多くあります。おっしゃられるように企業の皆さんの、どういいましょうか、実際にCO_2が何ぼあるか、自分の会社は排出してるから幾らだというやり方の考え方の企業の皆さんもおられますが、一方では、やっぱり今問われてる脱炭素っていうところの中の、どういいましょうか、自分の会社としても、やっぱり進めていきたいということを考えておられる方がほとんどであります。ですから、ただ、どういうやり方ができるかっていうところを模索されてる企業が多いっていうのは、どういいましょうか、中海の皆さんからも多く聞きますので。ただ、今現時点でやっぱりそういう脱炭素に対して、あるいはＳＤＧｓを推進するに当たって、どういうやり方があるかっていうのを模索しながら、今回の日南町の取組があるんだから、取りあえず気持ちだけでもスタートしたいっていうのの企業も多いというふうに思っております。ですから、これから、やはり私たちがこういった脱炭素の取組に向けての企業の皆さんと一緒になって取り組んでいくっていうことがまずは大事だろうというふうに思っていますし、そういう企業がほとんどっていうわけではないというふうに思っておりま

すので、これから本当に推進する啓発も含めてですが、そういった取組が一つのありようだろうというふうには思っています。

また、別な話をさせていただきますと、今、国のほうが方針として、どういいましょうか、脱炭素社会をさらに推進するために、大きな企業ですよね、例えば電気を発電する会社、あるいは石油を購入する会社の皆さんについて、そういった付加金を考えたらどうかっていうような、まだ計画段階ではありますけれども、そういった取組をしながら国も推進していきたいということで、国際的なところを発行しながら脱炭素に向けての企業への後方支援っていうか、そういった取組を計画されておられます。そのときに逆に換算したときに、国のほうは、じゃあ、１トン何ぼで企業の皆さんに買ってもらうかっていう試算がこの間出ておりまして、そこは1,０００円でありました。ですから、そういったように様々な考え方があるというふうに思っておりますし、また、変動っていうところが出てくると思いますけど、将来的には、先ほど申しましたように、何かの基準的なところが生まれてくる可能性もあるんだなというふうなイメージを私が思っていたので、あまりこの場で言うべきではない話かもしれませんが、取りあえずは、そういった先ほども、度重なりますが、啓発的な意味も含めて推進として継続した形で今回は考えておりますので、そういった何らかの基準が生まれてくるようであれば、再検討はする必要性はあるというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　Ｊ－クレジットはこれから話しするグリーンドリーム計画にも関連しますが、町長のほうが言いましたように、昨年３月にグリーンドリーム計画ということで、それから町長、今日のお話で、副町長８年間、それで町長４年間、１２年間。この環境管理計画が、もう来年新規になると４期目ということは今年が１５年目なので、中村町長、副町長時代からいくと約１２年ですか、だから、最初の環境計画は前町長とか前あれですけども、ほとんどこれに携わっておられたわけですが、今のスケジュールですけども、住民課でつくっていただいたスケジュールは御存じでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっと日にちは忘れましたけれども、以前、議会のほうにもスケジュールを報告させていただいたということは承知しておりますし、ちょっと具体的な内容を今ぱっと言われても忘れてしまったなと思っておりますが、いずれにしても、今年度中には完成するというスケジュール感の中では確認をさせていただいてるつもりであります。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　ということで、私は過去３期の環境管理計画、実行計画、地球温暖化防止計画、それをそうして町長は第４期からはグリーンドリーム計画ということで打ち出されたわけですよ。私は過去も何回か、この計画、実績について質問したり、実のあるものにしていただきたいいう思いをずっと持っておりましたんで、今、町

長自身がスケジュールは御存じなかったんで、担当は住民課なんで、これ納期からいうと、実は今、先ほど年内に素案ですけど、これは１０月に素案作成になっとるんです。そして、年明けたらすぐに住民課は忙しいですよ、税務とかいろんなことで。私はスケジュール管理、要するに計画が一番大事だというふうに、計画つくって、それを毎月チェックすることによってちゃんと目的達成しなければならないのに、もうこれで6月につくったやつは、もうたった6か月で2か月ずれているわけですよ。それについてはどう思われます、本当にあと3か月でできるんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　改めて、どういいましょうか、今回の歌川さんの講演等もあった関係も含めてですが、現場との再確認をさせてもらっておりますので、このスケジュールの、若干当初のスケジュールよりは遅延ぎみかもしれませんが、最終的にはしっかりとした年度内の完成っていうところの目標にというふうに思ってます。あわせて、昨今のやっぱり環境に関するこういった脱炭素に関する考え方っていうのがどんどん膨らんできておりますし、他の要件あたりも加わっておりますので、そういったできるだけ、どういうか、広範囲の形の中で計画に取り入れることができたらそこは加えてほしいという、現場に向けては私もお願いをさせてもらっておりますので、そういったことが多少遅延になっとる部分もあるのかなというふうには反省はしておりますが、いずれにしても、しっかりとした取組を進めさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　1番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　町長の言うように、しっかりとした取組をしていただきたいんですよ。一つの事例でいきますと、この素案ができれば環境審議会を3回開くようになっとるんですが、これ1回も開いてないんでしょう、どうなんですか。

○議長（山本　芳昭君）　高柴住民課長。

○住民課長（高柴　博昭君）　すみません、環境審議会のほうは1回9月１５日に開催をしております。今後の予定としましては、１２月中に素案を発送しまして1月中に開催を2回目をしたいと思っております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　1番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　そこなんですよ。これね、本当に中身見ますと、過去の。実態と合ってないんですよ。過去にも副町長時代に私質問しました。

　そしたら参考に聞きます。日南町環境基本計画推進連絡会議は、今年度、昨年度、開かれましたか。

○議長（山本　芳昭君）　高柴住民課長。

○住民課長（高柴　博昭君）　すみません、開いてないという認識でおります。

○議長（山本　芳昭君）　1番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　これの座長は誰でしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　高柴住民課長。

○住民課長（高柴　博昭君）　すみません、ちょっと度忘れしまして、環境基本計画審議会の委員に関しましては、すみません、ちょっと今覚えておりません、すみません。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　いや、というふうに担当課長が、今３つあるんですよ、基本計画、それから地球温暖化計画、実行計画、３つがあって、これをまとめてグリーンドリームにしたいと。本当に頭痛いぐらい中身を読んで過去こうしてやろうとしてることの僕は一例だけ聞いたんですよ。それが頭に入ってないということは、それで環境審議会に出されて、環境審議員さん、どうですか。ちょっとそれはね、今までずっとそれだったんですよ。実態が合ってないんですよ。だから私は、中村町長が昨年３月に施政方針でグリーンドリーム計画やるんだと、それはいいです、風船上げるのは。過去もずっと実態が伴ってなかったんですよ。実態伴うように本当に実効ある計画をつくっていただきたい、期待しとるわけですよ。でしょう。座長言いますよ、答えは、副町長です。副町長、御存じですか、この内容を。

○議長（山本　芳昭君）　丸山副町長。

○副町長（丸山　　悟君）　十分に知り得ておりません。申し訳ありません。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　私は、やっぱりトップは町長なんで、町長は指示するだけでいいんですよ。あとは副町長中心に担当課長、住民課長だけじゃないですよ、連絡会議というのは各課長なんですよ。総務課長、企画課長、全部入るんですよ。それが推進会議ですよ。中村副町長時代に、私、質問しました。そうしましたら、ノーマイカーデーの会議を１回だけ開いたことあると、数年前に、これが答えなんですよ。機能してないんですよ。機能するようなこの計画をつくらないと、行政がそういうんだったら、町民、どう、何を求めるんですか。これからリサイクル率をもっとしましょう、ごみ問題についてごみを燃やさないようにしましょう、これから多岐にわたるんですよ。そして、この実行計画、年度ごとの実行計画、２０項目ありますが、座長として見ておられましたでしょうか。私見たらいかんけど、これを見ておられて、過去の１４年間見ておられて、来年度からまた５か年の計画つくるわけですよ。その辺はどうなんでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　どういいましょうか。計画をしながら、例えば行政辺あたりも、様々な公共施設の中で、どれだけ例えば電気を使ったとか、車を使ったとか、そういう内容が含まれてるっていうふうに思っております。私が前回グリーンドリーム計画っていうところを申し上げたのは、やはり、こういった町でありますので、あるいはＪ－クレジットの営みをしたり、あるいはＳＤＧｓの未来都市の選定をいただいたという背景も踏まえて、これから脱炭素といったところの世界的な、あるいは日本的なところの取組を自治体として優先的に率先してやりたいという気持ちがあるっていうことの中でのグリーンドリーム計画という、新たなということではないにしても、総括的なところの

中の推進したいというまちづくりをしたいというふうな思いで発言をさせていただきました。ですから、その思いはやっぱり職員の皆さんも理解していただいてるというふうに思っておりますので、これからその実効性ある形のものを、どういいましょうか、改めて従来の計画と併せて改定をしていきたいというふうに思っております。今回排出量を下げるっていうことは、もちろんそうですけれど、町としての特徴は、森林を整備することによって二酸化炭素の吸収っていうところが、他の町とは違った形の特徴のある自治体でありますので、そういったところの考え方も組み入れた計画にしてほしいという提案をさせていただいておりますので、今、森林組合等も含めて、そういったところの数値把握を進めておりますので、ぜひ完成の段階でまた御意見をいただければというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　物すごく重要なことはたくさんあるわけですよ。多岐にわたります、環境問題を、例えば一例を挙げますと、希少植物とか言われますね、サクラソウであるとかいろいろ。この中で、あした議会が、小学校５、６年生の発表に行かせていただくんですけども、町長も副町長も教育長も学校行って、今日の新聞にも出てます。ここであるオオサンショウウオが住むすばらしい自然環境を守り、人間と共存のできる町にしたいというような内容を発表された。提案したい。そして、例えば文化ホールだと思うんですね、ちゃんねる日南でずっと放送されました、たしか。１年生から６年生まで。たしかオオサンショウウオのこうやって、すごいプレゼンテーションしてたなと、これも環境問題なんですね。そういったこと、もう幅広いんですよ、環境というのは。

その中で、セントラルのことはどことも書いてないです、過去にも。これも大きな環境問題なんです。プラスばっかりは書いてあるんで、いいとこばっかりは。問題はリスク管理なんで、この環境は全て、地球に対するリスク管理、これがCO_2排出なんですよ。リスク管理と、町のリスク管理は何かといったときに、やっぱりきれいな水を下流域に流す、皆さんが使うというのが大きなリスク管理なんですね。セントラルファームとかいうのを具体的な名前は出さなくていいんですけど、やっぱりそういった経営する場合であるとか、小原川、一例でいくと、町長は日野川源流を守るシンポジウム、１２月３日に出ておられました。たまたま中海テレビ見ますと、一番最前列で映っておりました、町長の後ろ姿が。ああ、町長出ておられるなと。そこでも、やはり日野川源流は日南町なんで、先ほどの一番最初のセントラル問題、小原川が魚のすめない川になってるということも大きな環境問題なんで、この辺の取組、いろんな審議会があると思いますが、この辺を今回の新たな計画の中に入れる予定はございますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には計画っていう話でありますので、ちょっと現場の皆さんとは話をしてるわけでは、現場っていうか担当課と現時点で話をしてるわけではあ

りませんが、基本的には広い意味での、どういいましょうか、考え方っていうのが主体になるというふうに思っておりますので、その必要性の有無については、また審議会等の中も含めて検討する余地があるかなというふうに思っておりますが、素案的なところの中ではのせるつもりはもちろんありませんが、ただ、審議会の中での意見というところの会を通すっていう話をしておりますので、その中で委員の皆さんが御意見があるっていう話はある話ではありますので、という流れではないのかなというふうには思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　町長、例えばもう今１２月けれども、１月の中旬ぐらいには完全に出来上がって、これ、パブリックコメントをいただくようになっとるんですよ。もう僅か１か月しかないんです。それは相当拍車をかけてやらないと、過去の３期間を本当に中身見ますと、本当に作っただけの資料になっとるんですよ。もう何回も言ってる、こういった計画表も２０項目あったうち最初から３割はもう達成しとる内容であるとか、数値がおかしいし、実績は２年たたな出てこないリサイクル率。本当に町民の皆さんにも協力していただいて、こうこうなりますよというものを、ただ作っただけで引き出しの中に入れてるような書類ではいかんなと思うので、本当にグリーンドリーム計画は町長が提唱されたんで、やはり町長にもうちょっと見ていただくか、もしくは副町長に指示して、副町長は自分の仕事だと思ってやっていただいてやらないと、同じことになりますよ。特に担当課長は替わりますからね。だから、その辺で強いリーダーシップを持って、せっかくグリーンドリーム計画と言われてるので、第４次計画については大変期待しております。そして、環境立町推進協議会にも聞くようになってましたが全く聞かれてないんで、要するに、最初町長言うように、協働、共生、皆さんでつくっていこうと、言葉はいいんですよ、実態が伴ってないんで、いや、本当ですよ。やはりもうちょっと納期管理、要するに私は仕事するときにいっつも言われたのは、逆算の仕事せいっていっつも言われたんですよ。ターゲットが３月であれば、２月、１月、１２月、今何をしなければならないのかになるんですよ。通常、計画をつくったら足し算ばっかりですよ。何か理由つけて、忙しかった、こうなった、どんどんどんどんずれ込むんですよ。そういう仕事じゃなしに、絶対給料払わないかんのは２５日とか２０日って決まっとったら、それまでに全部処理してないかんでしょう、それと同じで納期を決めたら死守する、そういうやり方をやる。夜中まで働いてやれじゃないですよ。そういう知恵を出しながらやっていく、そして本当に実のあるものにしないと、せっかく労力やって実のないのでは困る。特にこういった実行計画、これホームページにも出ますんで、その辺どうでしょう、町長、もうちょっと具体的に入っていただきたいんですよ。お忙しいと思うが、本当に第４次計画を、これ一つの柱、要するにＳＤＧｓで国からも表彰していただいとるんで、その辺の思い、また３月議会で聞きますけど、これができたかどうかを、どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　先般、先ほど答弁にも申し上げましたけど、町民大学でお越しいただいた講師の歌川さんにもこの間、別の日に打合せをさせていただきました。そういった経過も踏まえながら、知見をいただきながら、実行計画っていうかドリーム計画についての御提案、あるいは御意見をいただきましたので、そういったところを進めてきておりますので、年度末っていうか、それこそスケジュール感も含めてですが、パブリックコメントもいただくような計画にしておりますので、期間がどうこうっていうことは生まれてくる可能性はあるかもしれませんが、そういった経過の中で住民の皆さんにも御意見いただく期間を設けながら、しっかりとした計画に努めていきたいというふうに思ってますし、私自身も素案の段階でも改めて確認をさせていただきながら、内容を精査しながら進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　１番、大西保議員。

○議員（１番　大西　　保君）　講師の歌川先生、私も聞かせていただきました。その会には町長も自ら出席されて、町民大学で、聞いておられました。というように、トップ自らがそういったとこ出ていって次に生かそうというのは、大変それはいいことだと思いますし、よかったかなと思っております。やはり人か第三者か見ていただいて、本当日南町のグリーンドリーム計画がどこにも負けないような計画になって、そして実効を伴うようにして、そしてCO_2の排出削減、また、ごみの減量化であるとか、そういったとこへ、それから希少動物の生息とか等々でやっていただきたいと思います。今回は３点について質問いたしました。特にこの件につきましては、３月のときに聞きたいと思いますんで、予定どおりつくっていただくようにお願いしたいと思います。

私の質問に答弁は結構でございます。ありがとうございました。

○議長（山本　芳昭君）　以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　ここで、暫時休憩といたします。再開を午後１時からといたします。

午前１１時２１分休憩

午後　１時００分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き、一般質問を行います。

３ページ。

５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　さきの町長選におきまして、多くの町民から期待され、中村町政の継続が決まりました。町民に示された重点政策を踏まえ、これから４点についての一般質問をさせていただきます。

まず最初に、中心地域整備についてであります。中心地域の整備計画が見えていませ

ん。進捗があったのか、また、取組が始まったのか、併せて今後の方針についてお伺いいたします。

続いて、このたびの選挙において、重点政策として上げておられました新病院建築プランと介護の充実についてであります。新病院建築プランの検討を始めると政策提言で述べられておられますが、その内容とスケジュールの概略及び介護の充実という点についてお伺いをいたします。

続いて、観光振興についてです。山里Ｌｏａｄにちなんが発足して半年が経過し、予算査定がなされている今時点、今後の活動内容と課題が見えた内容となっているのか、どう捉えているのかお伺いします。

最後に、共創・協働についてであります。共創・協働で進むまちを２期目の柱として捉えておられますが、その内容と狙いについて質問をいたします。また、期待するおのおのの役割、担当する役割についてお伺いいたします。

以上、よろしくお願いします。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　近藤仁志議員の御質問にお答えします。

最初に、中心地域整備について、整備計画の進捗と今後の方針についてという御質問でございます。

議員御指摘のとおり、平成３０年度に世帯アパート６戸を整備して以降、活用が進んでない状況であります。大田原地区は町内では限られた広大なスペースを有しておりますので、その活用については一体的に整備していくことが望ましいと考えております。現状、ウッドカンパニーニチナン、あるいは日南プレカットなど、すぐには解決できない課題もあり、整備計画をお示しできてない状況であります。今後の整備計画策定に向けた予定でございますが、令和５年度に大田原地区を含む中心地域活用に向けて、住民アンケート、あるいは住民ワークショップなどを開催し、中心地域整備計画を策定していきたいと考えておるところでございます。

続いて、新病院建築のプランと介護の充実についてということで、新病院の建築プランの内容と状況についてという御質問でございます。

日南病院は昭和３７年４月に開設し、現在の建物は昭和４８年に新築しております。以来、複数回の増改築を経て４９年以上経過し、昨今建物の老朽化が進行しており、毎年多くの修繕費がかかっている状況であります。そうした中、これからの医療需要に沿った医療サービスの提供を行うため新たに病院を改築し、医療機能及び施設整備、場所、財源を含め、少しずつ丁寧にプラン策定を進めて、新たな日南病院の改築の基本計画の作成に取り組んでいきたいと考えております。

また、介護の体制につきましても、喫緊の課題であります。病院を含め、介護関係者との連携体制において今後の在り方を検討してまいります。なお、当面の課題は人材不

足の解消であります。現場の皆さんと一緒になり、自らも介護の魅力発信に努めていきたいというふうに思っております。

続いて、観光振興について、山里Ｌｏａｄにちなんの今後の活動内容と課題についてという御質問です。

観光振興の取組について、特に町からの委託事業になりますが、ヒメボタルのおもてなしや、日野上イチョウイベントなど、山里Ｌｏａｄにちなんが中心となり、地域を巻き込み自立した事業運営を行うことができました。事業を運営していく中で得たものとして、イベント運営スタッフの人材発掘ができたことは大きな財産となっております。山里Ｌｏａｄにちなんの職員も日南町観光協会のときと比べ倍増していますが、大きなイベントになりますと人員の不足になります。多くの来客者に安全に楽しく過ごしていただけるためにも、今年関わっていただいたスタッフの皆さんを協力者として位置づけ、観光振興に係る人材バンクづくりを目指していきたいと考えております。また、観光協会時ではできていなかった取組として、ＳＮＳを活用した情報発信教室も実施いたしました。このことは、山里Ｌｏａｄにちなんのスタッフが充実したことにより、今までできていなかった事業の一例になります。今後は、これまで取り組めていなかった分野の充実を図っていく必要があるとともに、近年実施しておりますモニタリングツアーを分析し、地域限定旅行業の資格を生かした自主事業商品づくりを急ピッチに進めていく必要があると考えております。

次に、共創・協働について、共創・協働で進むまちを２期目の柱に据えておられるが、その狙いと期待するそれぞれの役割についてという御質問でございます。

１期目の４年間もそうでありましたけれども、Ｊ－クレジットの販売など、地元の金融機関等とも御協力いただきながら、5,０００トンを超えるＪ－クレジットの販売を行ってまいりました。今後のまちづくりにおいても町政の課題はより専門性が高まり、課題も複雑化していくことが予想されます。Ｊ－クレジットの販売だけではなく、ＤＸの推進、あるいはゼロカーボンシティの達成など、民間企業、大学など外部機関の協力を得なければ行政だけでは解決できないことが多くなるものと感じております。２期目におきましても、引き続き民間企業、大学、住民さん等の皆さんとの共創・協働により、住民の皆さんの生活がより豊かで幸せなものとなり、住んでいる私たちがこの町に誇りを持てるよう、持続可能なまちづくりを推進してまいりたいというふうに考えております。

以上、近藤仁志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　中心地域の整備についてであります。コンパクトビレッジの推進というのを高く掲げておられます。やはりこの中心地域がコンパクトビレッジ推進においては中心になってくると思います。前町長が示された構想プランを棚上げさ

れてから久しく時間がたっておるわけです。そんな中で、本日の答弁にありましたが、来年度からアンケートやワークショップ開催などをやっていくという答弁でありましたが、大変スピード感に欠けているんではないかという気がするわけですが、今までどういった感じでこの中心地域の開発について考えておられたかお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には、申し上げましたように、広大で平場でそれこそ中央部に位置する場所でありますので、本当に貴重な土地でありますので、有効な利活用というのが目指すべき方向だろうというふうに従来から思っております。ただ、昨今の住まいづくりの関係がありまして、住まいが先に先行した形で平成３０年度に建てさせていただいたというところであります。その後、全体見回したときに、先ほどもあったように、民間企業の皆さんが２つ建物を利活用されて、あるいはちょっと大雨のときには水が流れてくるというような状況や、そういう実態もあったというふうに思っております。

ですから、最終的にはあの地域をやっぱり、どういうですか、防災的な観点、安全面も考えて、まずはやっていかないといけないというふうには思っておりますが、それ以後の平場での土地の利活用というところは、様々な御意見も従来からいただいてる部分ももちろんありますが、次のところもありますが、病院あたりをどこに建てるかっていう大きなテーマがあって、私の中でまだ整理がついてないっていうところがあって、あるいは従来から保育園を改築したときにどうするのっていうような、大きな公共施設がありますので、その改築時のときのやっぱりイメージっていうのも考えておかないといけないのかなっていうようなイメージが個人的には持っておりました。狭い面積では、それぞれが公の施設ではありますが、狭い面積で足りるものではないので、そういったところを総合的にこれから土地利用活用をどうすべきかっていうところが１つの問題点かなというふうに思っておりましたので、議員おっしゃられるように、ちょっとスピード感がなかったっていうことの御指摘いただいておりますが、まさしく私もその辺は反省をしておりますので、そういったところも含めて、これから新年度からは、そういった取組を、構想を、本当に多くの皆さんに声をいただきながら着実に練っていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　議会でも住宅政策及び中心地域調査特別委員会を設置して、この中心地域の整備状況について、いろいろ関心を持って取り組んできました。しかし、担当課のほうにこの進捗であったり、取組内容について説明を求めたところ、なかなか説明ができる状態ではないという報告でありました。このコンパクトビレッジ、特に中心地域に、先ほど町長がおっしゃられたように、病院であったり、それから保育園であったり、そういったものを、それと議会で行いました意見交換会というのを持って開催しておるわけですが、昨年はＰＴＡの役員さんとしたときに、やはり子供のため

の広場が欲しいと、それから、今年した商工会の青年部との話でも、やはりそういった広場が欲しいと、それもやはりそういった大田原のみんなが集まるところに欲しいと、そういった中心地を整備することによって、周辺地域ですね、山上だったり阿毘縁、遠く離れたところ、そういった住民にとっても大変一元的に一遍で用が足りるようになるということは、大変利便性にかなったものだと思っとるわけです。そういった考えは、これから先、中村町政をやっていく上でどのように取り組んで、要するにそこに集中させて町民の利便性を高めるという考えはおありでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には議員おっしゃられるとおり、従来のコンパクトビレッジ構想っていうところの考え方については継承するつもりでありますし、最終的には住民の皆さんが利活用するということでありますので、ですから、そこの住民の皆さんが利活用するために効果的な場所はどこなのかっていうことが一番重要視した捉え方の中で、ですから、私自身はやっぱり、どういいましょうか、今まで進めてきたコンパクトビレッジ構想の考え方は継続した形で捉えていきたいと思いますし、先ほど病院と保育園言いましたけども、議員おっしゃっていただきましたけれども、若者層あたりの声っていうのは、遊び場的な公園的なというところの声は当然、どういいましょうか、イメージはしておりますので、ちょっと私のほうで冒頭申し上げませんでしたけれども、議員おっしゃっていただいたのでお礼申し上げたいと思いますが、そういったことも含めてトータル的に考えていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　その中で、子育て世代の声がなかなか町政に届いていないんではないかということ、それから、なかなか子育て世代の声が採用されていないという、ちょっと不満がたくさん出たように聞いております。その点について町長のお考えをお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　そういう御質問ですけれども、基本的には私自身が考えてる多くの問題点の集中は、やっぱり公園的なところの遊び場、そこがそういう子育て世代の皆さんの主たる声っていうか要望っていうふうに理解はしております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　やはり先ほど町長がおっしゃられましたように、多様性を持った活用をするのに、今現在、ウッドカンパニーの建屋、要するに製材所の建屋があって、倉庫があって、乾燥庫があって、事務所があると、そういった中で、なかなか住民の絵も描けない、要するに広さの活用方法の構図が浮かんでこない状況なんですよね。この木材団地において、今、ウッドカンパニーの製材所建屋がＤＷファイバーの製造として貸与されておられます。これはやがて木材団地のほうに移転するという約束でなっとるわけですが、これはいつ頃移転をされるというような今状況でありますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には、当初の計画であります上の団地のところに造成が完了しましたので、その完了を受けて企業の皆さんが新たな計画の建屋っていう話を進めていただいてるつもりであります。ですから、それができて移転するっていう話ですから、そんなに遠くない年限というふうには理解しておりますし、どちらかいうと、うちのこの中心地域の計画が進む中で、ある程度年限は改めて確認をさせていただく、あるいは、基本的にはウッドカンパニーはそれまでには整理がつくというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　いうことは、まだ木材団地に新たに造成した土地を新たにいつからさばると、これは大建工業に対する目的を持った造成地であります。そこにはＤＷファイバーの施設もそちらに移転するということですが、それは今の時点では時期は示されていないということですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　数年ということでありますので、具体的に、例えば何年度というところまでの具体的な数値っていうか、建築年度はいつ、あるいは引っ越しがいつっていうことの明確な話はまだ確認取れてませんが、基本的には当初からの計画の中で進めていただくっていう方向性の確認は取らせていただいておりますので、ですから、近年中というふうな捉え方を私はさせてもらっておりますが、造成も完了しましたので、その辺はこれから具体的なところは詰めていきたいとは思っています。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　造成が済んでからもう多分7か月、8か月済んだと思うわけなんですよね。その間に、今の製材所から移転するべく、大建工業のほうにいつ頃からその計画を実施されるかという問合せとか、確認とかはなされていないわけですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　どういいましょうか、シンポジウム等を行ったときに、そういった接点はさせていただきましたけど、まだ明確な回答が入ってないっていうところが現状でありますので、その辺をこれから改めて詰めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　それは早急にやはり確認し、町の基幹となる中心地の整備に関わることでありますので、早急に確認とお願いをするべきだと思います。

　それで、仮にこれが移転されるのが済んだ後、その建屋というのは解体という方針でよろしいですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的にはそのような考え方を持っておりますが、ですから、

今度新しく構築する中心地のやっぱり、どういいましょうか、内容っていうところが基軸になるのかなと思いますが、なかなか現状の建物も、どういいましょうか、老朽化してる部分もたくさんありますので、基本的には解体という考え方を持っておりますが、次にその場所をどうするかっていうところが、基本的には優先な考え方になるというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　かつてあの場所がイエローゾーンであったり、レッドゾーンであるいうことで、なかなか開発計画に制限がかかっているというような説明を受けた記憶があるわけなんですが、やはりそのイエローゾーンの解消というのは早急にさばって、今先ほど町長がおっしゃったように、何にでも使える状態にもう今の段階からでもやっておかないと、いざ計画は決まった、さあ、やろうと思ったらイエローゾーンで物が建てれないという状況はあってはならないことだと思うわけなんですが、そういった意味の取組というのは考えておられませんか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御指摘のとおりだというふうに思っておりますので、いずれにしても、どういいましょうか、イエローゾーンでもありますということは確定しておりますし、それと、今度どういう形になるかは別として、特定の人が参画できるっていうことではなくて、多様な人が参画できるスペースになるというふうに思っておりますので、先行した形の中で、やはりイエローとかレッドの解消に向けた整備っていうのは率先してやっていきたいというふうに考えております。スケジュール的には、そこをまずは先行するべきだというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　この大田原地区に関しては、整理すべき課題が多いということで、十分その認識は分かるわけなんですが、でも、一歩ずつでも解決していかないと、整理していかないと、課題が多いから取り組むのを先送りにするというのは大変間違ってると思います。あそこには水路が生山地区に、今はどうも使ってないようですが、水路もあるようでありますが、だから、そういったのの権利の解消などはどのように考えておられるのか、今からでももうその辺を確認しておく必要があると思うわけなんですが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　従来からそこの山手の水路につきましては、自治会の管理という形、管理言やおかしいですが、代表的なところで聞いておりますので、ですから、以前からそういう相談はかけさせていただいております。今後利活用されますかっていうようなことも含めて。現時点では使用するという話を聞いておりますので、ですから、そういったところの考え方を残しつつ、新たな整備っていうところを構築していく必要性があるというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　だから、やはり早め早めにその問題というのを洗い出して、それに対する対策というのをやはり先手先手で打っておかないと、いざそこにどういったものを活用するかという構想がきれいに湧かないと思います。自分としてもこの大田原によって、日南町民の方がそこで、そのエリアですね、役場を含めてその地域で日常の生活が終了できるという、困り事も解消できるという構想をぜひ今後描いてほしいと思います。

続いてでありますが、新病院建築プランという、このたびの町長選挙において大変大きな争点といいますか、大きなキャッチフレーズとなって、町民、また、マスコミなどにも取り上げられました。その内容について再度どういった構想を持っておられるのか、こうしたいという町長の思いをお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　まず、やはり病院っていうのは、住民の住んでる皆さんの命に関わるものですので、必ず守りたいという基本的な考え方を持つ中で、とはいいながら、現状の課題っていうところを考えたときに、経営的な数字ももちろんあるし、建物の老朽化っていうところがあります。そして、御案内のように国のほうの地域医療構想っていうところもある中で、若干その辺の考え方が昨今は変わりつつあるっていう話は御承知のとおりだというふうに思っておりますが、やはり守る中で、そういった経営的な話だとか、人材確保のことも含めてですが、そして人口減少がある中で、どう地域医療を残していくかっていうことが大きなテーマだろうというふうに思ってます。そういったことを含みながらトータル的に改築をしないといけない時期だろうというふうに思っておりますので、そういったところを基点に考えながら、そして最終的にはやはり、どういいましょうか、多くの自治体あたりがなかなか経営が難しいという話も聞く中でありますが、できるだけ経営を、大きなマイナスにならないということを基軸に考えるにはどうしたらいいかっていうことを考えていきたいと思います。

一方では、やっぱり整形外科だとか、小児科だとかの、そういった外来の部分の地域の住民の皆さんの要望があるっていうことは承知しておりますので、そういったところの解消ができる仕組みっていうことも含めて考えていかないといけないというふうには思っております。一つは、総合医ですか、そういったところの活用がどこまでできるか、あるいは人材が確保できるかっていうところが一つの課題だろうというふうに思っておりますが、そういった課題に向けて挑戦をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　日南病院も建設から半世紀過ぎたということで、大変老朽化が進んでおるということで、そこで、最近三、四年でいいわけですが、平均的な建屋であったり、備付けの設備、備品などの修繕費というのがどれぐらいかかってきたかというのをお伺いしたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　福家病院事務部長。

○病院事務部長（福家　寿樹君）　議員の御質問に対してお答えさせていただきます。

建物に関しては修繕、当然でございます。機器に関しては更新というふうになってくるかとは思います。特に年数のたってるものがやはりまだ多く残っておる関係上、ここ、そうですね、若干のその年によっても金額の多い少ないはありますが、特に、この令和から調べますと、令和元年度におきますと、やはり大きなものとしてエレベーターの更新などを含めまして2,５００万ほど使っております。それから2年度はナースコールの更新にとどまっておりまして、これは８８０万、それから3年度、これも浄化槽、それから冷温水期発生装置など、やはり大きなものがありまして、含めて約2,０００万、今年度、今現在では屋上の防水改修、あるいはエアコン、それから建物本体のクラック等が大分ありまして、これの改修工事等含めまして1,２５０万等を今のところ使っておるようなことでございます。以上でございます。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　こうやって毎年大きな金額で維持しておる日南病院です。近隣の病院、日野病院、西伯病院、奥出雲病院。日南病院よりも後から建てられた病院は大変近代的なきれいな病院として映えるわけなんですよね。やはりそういったところに患者さん、外来であったり入院の患者さんが行くというのは必然的に感じておられるわけで、やはり建て替えというのは必要ではないかと思うわけ、要するに新築ですね。現時点で町長としては、建て替え、つまり新築を念頭に置いた政策提言であったのかお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には新築というのを目安にしてという考え方を持っておりますが、最終的には工事費というところと、それの財源というところがありますので、そういったところをバランスを、具体的な概算あたりを出す中でどうかという判断をしていきたいというふうに思っておりますが、どういいましょうか、建物の連携っていうか、そういうところもありますので、例えば医療療養型については福祉保健課の上にあったりとか、そういったところのうちとしての特徴がありますので、そういったところを鑑みながら、場所のことも含めて。ただ、最終的には町民の皆さんが病院を利活用される中で、便利なところっていうのが中心な考え方も一つは持っておりますので、ですから、最終的には財源というところも、改築は結構安いお金ではありませんので、５０億、６０億っていうような話もあるのかもしれませんが、その辺を少しずつ整理しながら方向性を固めていきたいというふうには思っておりますが、重ねてになりますが、基本的には新築というのを頭に入れておった構想を練っていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　かつての説明の中で、伯備線のすぐ隣で電化があって電

磁波が飛ぶ関係で、最先端医療機器というものが、ＭＲＩをはじめ、そういったものがなかなか設置しにくいということがありました。この場所について、そういったことを考慮して選定を考えておられるのか、おられないのか、今の時点で結構ですので、町長の考えをお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　議員おっしゃるとおりで、そういう背景も今までありましたし、それから、あの土地、土地いうか場所自体もイエローじゃなかっただっけ、というようなことのイメージがあるというふうに思ってますので、ですから、そういったことの解消も当然、今回の特に場所の選定につきましては、しっかりとした情報確認をしながら設定をしていきたいというふうに思っております。あわせて、どういいましょうか、高低差がある場所であります。御承知のとおりですね。今後の中で、そのことが利活用できるのか、あるいは平地が、多分建築上で費用で申し上げると、やはり平場のほうが経費軽減にはなるというイメージがありますので、そういったことも加味しながら総合的な判断をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　１１月５日に開催されました日南病院の６０周年シンポジウムにおいて、伊関教授の講演を聞く機会がありました。町長、役場関係者の方もたくさん参加されましたし、議員も多く参加しました。その内容について、日南病院の今後についての可能性を認識する大変いい機会だったと思っております。内容的にも何か将来に期待を持てるような、ほっこりした気分にさせてもらえる講演でありました。町長にとって、この伊関教授の講演内容はどのように取られましたか、ちょっとお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　私個人で申し上げますと、率直に申し上げますと、勇気をいただいたというふうな考え方を持っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　その中にもありました、建て替えというのはやはり必要であろうという先生の話であったし、それの大前提としては、やはり身の丈に合ったローコストの建物であるべきだということ、それから、ダウンサイジングでなしにバージョンアップであるということ、そういったことが大変自分たちから思っても、今ある日南病院も、患者を多く収容するための施設である、要するに住環境というのはあまり戦後に建てられたもので重視されていないので、これから先はスタッフの環境、それから患者の環境、それから患者の家族の環境、そういったものを重視した造りをすることによって、外来患者も来るし、入院患者も増えるというような説明でありましたが、その点、そういった考え方、そういったサイクルが起きる考え方というのは、町長はどのように考えられましたか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　私自身も以前から、建て替えるなら、例えば入院だったら全て個室にしたいという考え方を持ってました。ですから、伊関先生もその話をされました。料金は無料という話をされましたけれども、その辺は別として、基本的には御案内のように介護施設もそういう状況がこれからの考え方ですので、やはり入院しておられる患者さんの目線というのが大事にすべきだというふうに思っておりますので、ですから、冒頭、勇気をいただいたというのは、そういったことも含めた背景ということで御理解いただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　これから検討に入るという話であります。でも、やはりこのスケジュール感、要するに持続可能なまちであるためには、医療は大変、町長もおっしゃいましたけど、欠かせないものであります。そのためにも今現在、外来、入院患者が減って医業収益が減ってきてる状況の中で、スケジュール感というのはやはり持っておかないと、ずるずる下がってから回復というのは大変難しい面があると思います。このスケジュール感というのはどのように捉えておられますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本計画についてはスピーディーな形を取っていきたいというふうに思ってますし、また、伊関先生との関わりも今後も続けながら、情報収集しながら、よりよい医療をどのようにしていくかっていうことは努めていきたいというふうに思っておりますが、ちょっとまだ現時点ではそこまでお知らせする状況ではないというふうに御理解いただければと思いますが、早急にそういった形も含めて、計画についてはまとめていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　一朝一夕でできる施設でもありませんし、大変な莫大なお金と町民の理解が必要になってくるとは思います。やはり場所、内容、コストという、そういった面を勘案しながら、やはりスケジュール感を持った取組を町民に示していただきたいと思います。

　それで、次、介護の充実ですが、大変日南町は高齢化が５６％ですか、大変進んでる、ほかに類のないような町でありまして、前例のない道を切り開きながら進んでいく苦難の道であると思います。今現在、介護の充実ということで、介護者に寄り添う姿勢は大変敬服するような大変手厚い寄り添い方をされていると思いますが、現在老人ホームつくほとか、あかね荘などが満室のような状況だと聞いております。これの需要について今後どのように考えておられるのか、また、調査しておられるのか、利用者の増減についてお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　最近の数値っていうのはイメージがついてないですけども、来

年、介護保険の計画っていうか更新の時期でもあります。老人福祉計画も同時ではありますが。そういったところの中で、より、どういいましょうか、詳しい実態が確認できるのかなというふうに思っておりますが、全体の高齢者の皆さんからいくと、少し減少傾向にあるっていうふうに思ってますので。ただ、2年前ぐらいのイメージですけれども、全体の要介護者と要支援者のイメージからいくと、要支援者の方が少しずつ増えてきてるっていう話ですので、これから何年か経過するごとに、一般的には要支援から要介護に状態が移行するっていう話だろうというふうに思っています。現状でいきますと、サービスというところで捉えていくと、今回のいろんな地域の皆さんの声を聞くと、やっぱり入所という形ではなくて、今、在宅のほうで介護しておられるけれども、やっぱり長くなると介護の疲れっていうところも当然出てきますので、在宅部門のより充実っていうのが求められてるのかなというふうに私自身は思ってますので、そのためには、やはり今直近の課題は、介護職員の不足っていうところでイメージしておりますので、そういったところに、介護現場に介護者が増えることをまずは注視して努力していきたいなというふうに思ってますし、幅広い募集っていうか、職員採用に向けての在り方を改めて見直しをしたり、私自身もできるところは進めていきたいと、関わっていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　今、つくほ、あかね荘、要するに老人ホームなのかサ高住なのか分かりませんが、そちらのほうに空きを求める問合せなどは、大体年に何件かあるわけですか、何件ぐらいありますか。

○議長（山本　芳昭君）　出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口　真理君）　先ほどありました特別養護老人ホームあかねの郷の中にできましたあかね荘と、つくほのほうですけれど、有料老人ホームになります。そちらについてですけれど、つくほのほうが9床ありまして、現在、議員おっしゃられるように満床になっております。あかね荘につきましては、今年度増床していただきまして、今１９床ということでありますけれど、今現在、冬季の入所が今盛んに行われているところですけれど、数室まだちょっと空きがあるかなというような状況で、まだ相談を受けている状況です。

年間にどのぐらいの相談がっていうことですけれど、地域包括支援センター等の在宅支援会議のほうも会議等を頻繁に行っておりますので、その中で情報交換しながら、冬季、さっき町長も申しましたけれど、在宅でお住まいの中で冬季やはり在宅での生活が難しい方を中心に、冬季の居住についての情報交換のほうを行っておられます。ちょっと具体的にあかね荘に年間にどれだけの相談件数があるかについてを把握をちょっと持ち合わせておりませんけれど、その辺り、ケアマネジャー、地域包括支援センター、そして施設のほうとで連携を取って情報共有を図っているというような状況です。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　ということは、現在、あかね荘のほうでは空きがあるということで、町のほうで老人ホームであったり、サ高住であったり、そういった施設は足りているという認識でよろしいですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　日々状態が変わってきますので、何とも言えないというのが正直なところではありますが、ただ、現状では多少空きがあるっていう、あかね荘のほうでですね、というところかなというふうには思ってますので、施設系でいくとそういう捉え方ができるのかなと思いますが、現時点では、先ほど冒頭言いましたように、来年度にまた介護保険計画の見直しがありますので、そういったところで実態的なことが明らかになるのかなというふうには思ってますし、その状況を見ながら今後の展開を考えていきたいというふうに思っていますが、喫緊の課題については、やっぱり在宅サービスの拡大ができるための職員採用っていうところが喫緊の課題だというふうに改めて申し上げたいと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　人材不足というのが大変自分も理解するわけですが、それを解消するのに、やはり幅広い募集という解決方法というのが今までもずっと示されてきました。それよりほかに方法はないのでしょうか。それは幅広い募集というのは当然あるわけですが、工程というかな、人の動きというものを効率化というものは、どのように進めてきておられたのか。やはり足らないものをよそから補うのは当然必要ですが、中で改善しながら効率よい動線を確保するというのも検討されておられると思いますが、どういった取組を中心にやってこられたのかお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　議員おっしゃられるように今、どういいましょうか、デジタル化っていうところがありますので、以前現場のほうにも事務の省力化だとか、そういったところがあるなら、そういったデジタルを活用する仕組みがあるので前向きに検討してください、支援しますからっていう話の投げかけはさせていただいております。

　あわせて、どういいましょうか、もともとの職員構成が御案内のように平成の１７年からスタートしておりますので、日南福祉会の場合ですが。当時のときの、どういいましょうか、職員の集合体でスタートしてきておりますので、集合体っていうとおかしいですが、特別養護老人ホームにお勤めの職員と、社会福祉協議会で介護部門を担っておられた職員と、全く新しく採用した職員と、３つのパターンの中でスタートしてきております。ですから、スタートした時点で職員の年齢層が高い人のウエートがたくさんあったというところで、平成の１７年から今回運営を継続しておるわけですので、そういった職員の年齢構成ですね、あの辺が少しずつ今、定年を迎えたりしてというような状況の方が多くなってきてるっていうのが現状にあります。ですから、６０歳で退職しましたけど再任用で継続していただいてる皆さんもおられますが、ちょっとずつ新規採用

が増えてる関係もあって、少しずつですが平均年齢も下がってくるというふうに思っておりますので、長期的な人材が確保できるというような構想ではないのかなというふうに私は思っております。ですから、これからさらに若い人たちを採用することによって、さらに充実するんだろうというふうに思っておりますので、そういった状態が今の日南福祉会の職員構成だというふうに思っていますので、これからさらに若い人を本当に採用しながらやっていけば、どういいましょうか、退職のほうも少なくなるっていうふうに思っておりますので、ぜひともそういった形を構築しながら、安定的な運営ができるように努めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　大変人材不足というのは重大な問題であることは認識しておりますが、そういった中で、介護職員の介護士の充足率なのか、不足率なのか、どれぐらいが足りていないのか、どれぐらいまでしか十分な介護ができていないと感じておられるのか、その辺の、感覚でも結構ですがお知らせ願いたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　確かな数字ではないですが、今年、前年度の決算をいただいたときの福祉会の理事長等との意見交換の中でいくと、不足は今現時点では四、五人だというふうな回答をいただいた記憶しておりますので、ただ、順次変わってくる話もあり得ると思いますが、基本的にはそれぐらいの人数だという認識をしております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　やはり、これも大変日南町の将来に向けて早め早めに需要を察知して対応をしておく必要が、よその地区から学ぶということがなかなかできない高齢化率の進んだ日南町でありますので、大変苦難の道を歩まれると思いますが、そういった姿勢で取り組んでいっていただきたいと思います。

　続いて、観光振興ですが、今現在、予算査定がされていると思います。当然、山里Ｌｏａｄにちなんに対しても委託料という形で予算がなされると思います。そういった中において、今年度、イベントツアーの造成、エコツアーの造成、農村文化生活体験のツアーの開発というような項目が当初予算のほうで上げてありました。このたび引き続きモニタリングツアーをやっていくというような、先ほど町長の答弁がありましたが、こういったツアーの造成であったり開発というのができたのか、どの程度まで取り組んだけどできなかったのか、その点をお伺いしたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　モニタリングの分析っていうところのちょっと結果はまだ聞いてはおりませんけれども、これからの、どういいましょうか、確認をしていきたいというふうに思っておりますが、ただ、今年事業をしましたヒメボタルだとか日野上のイチョウのイベントがあります。そういったところにつきましては、どういいましょうか、それなりの目的の成果はあってるんではないのかなという判断をさせていただきました。

当然コロナのことがありましたので、十分な１００％の受入れっていうところはなかなか難しい状況ではありましたが、その中でもできる範囲っていうところの中で努めてきましたので、ちなみに申し上げますと、ヒメボタルが来場者が９０４人ですか、それから日野上のほうが、イチョウのほうが4,４６２ということで報告受けておりますので、来年度に向けて、さらにバージョンアップできるような形の中で進めていきたいというふうに思っております。

また、木下家の活用も十分ではなかったかもしれませんが、コンサートを開いたりとか、そういったところも含めて２回ぐらい事業展開をさせていただいてるというふうに思っておりますので、そういったこともこれから進めていきながら、先ほど申し上げましたけれども、どういいましょうか、地域限定の旅行業の資格を持っておりますので、そういったところの活用をさらに進めていくように現場のほうには改めてお願いなり、計画づくりに努めていきたい、新年度に向けての事業展開に努めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　そうでなくて、イベントツアーの造成、要するに当初予算の中に書いてあるイベントツアーの造成、エコツアーの造成、それから農村文化生活体験ツアーの開発とうたってあるわけなんですよね。それが、したか、しなかったか、それに対しての今の予算査定に何か、企画課、担当課のほうから提言されたか、されなかったかということをお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　島山企画課長。

○企画課長（島山　圭介君）　失礼いたします。今年度予定しておりました事業でございます。山麓協の御協力もいただきながら、９月１７日、１８日と、刀剣女子ツアーを行っております。また、夏ですけども、７月１７日に夏野菜収穫体験という事業のほうを行っております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　それに対して、今、予算査定の段階で来年度予算を組まれるわけですが、それに対して、来年度もこういう形で継続するというような提案があったか、なかったかということをお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　島山企画課長。

○企画課長（島山　圭介君）　次年度につきましても、継続して事業を行ってまいりたいというふうに思っております。また、自主事業につきましても、今年度よりもさらに充実できるように、先ほど町長も申し上げましたけども、旅行業を活用した自主事業をどんどん増やしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　それと、前から言われているわけなんですが、このたびのイチョウイベントの後にも報告がありましたが、要するに点を線で結ぶ取組の推進を

したいというのは、この何年も目標として上げておられます。なかなかまた今年もそういった反省点が出ております。その課題解決に向けて、どういった取組をなされたか、それがどういった結果が出たのか。もう何年も続いてるわけなんですよね、この反省点というのが。それがやはりこの日南町の観光振興であったり、また、経済の循環にとっても大変大きな問題だと思うわけなんですが、どうでしょうか、その点。

○議長（山本　芳昭君）　島山企画課長。

○企画課長（島山　圭介君）　昨日の総務教育常任委員会の中でも少しお話が出ましたけども、確かに今年度、今までどおりの活動に近いものとなっております。次年度以降、昨日、室長のほうも説明させていただきましたけども、たったもカードを活用していきたいなと。今は本当に日南町に来ていただいて、いかにその方々に町内でお金を落としていただくかという仕組みが今できていない状況でございます。こちらにつきまして、本当に、例えばイチョウだとか蛍だとか、期間限定の若干プレミアムを乗せたたったもカードのほうを販売して、それを使って町内でお金を落としていくような仕組みができないかということを今、山里と協議をしているところでございます。次年度以降、取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　この点と点を線で結ぶ観光であったり、それはどういった体験でもいいわけですが、そうすることで滞在時間が長くなるということ、また、そういったメニューがあることで交流人口が増えるということ、当然滞在時間が長くなったらお金も落ちます、食事もしてもらえるし、もしよかったら宿泊がしてもらえたら申し分ないし。それから、やはりそういった取組が大変これから先の観光振興をやっていく上には重要だと思うわけなんですが、この滞在時間を延ばすという取組について具体的にどういった考えであるのかお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　島山企画課長。

○企画課長（島山　圭介君）　今回のイチョウイベントでいいますと、本当に秋のいい時期だったということもありまして、本当はもっとレンタルサイクルを活用できればよかったなというふうに考えております。次年度以降にはなってしまうかもしれませんけども、このレンタルサイクルをいかに、町内の１か所だけではなくて、いろんな場所を巡っていただいたりだとか、町内でお食事をしていただくような仕組みに活用していけたらいいなというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　蛍の場合はやはりどうしても、反省会でも言いましたけど、宿泊というものがついてくるので、だから何かもう１点あったら宿泊まで持ってこれるんですよね。宿泊して蛍を見て、次の日、半日過ごして帰っていただく、昼に来て、町内体験をして、蛍を見て、宿泊してもらって帰ってもらう、そういったようなメニューのつくり方というのは当然あると思うわけなんです。それは山里Ｌｏａｄのほうにも

提案しましたが、このたびもイチョウなどに関して、芋掘りの時期とはずれるのか、まだ多分残っとると思いますが、そういった農業体験と組み合わせたようなメニューづくりというのを、ただイチョウイベントだけでなしに、そういった取組というのを考える考えはお持ちでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　おっしゃるように、それこそ点だけって言やおかしいですが、イチョウだけっていうことではなくて、やっぱり滞在時間を延ばすっていうことはプラスアルファ、プラスアルファがないといけないっていう話だろうというふうに思っています。それが自然であったり、おっしゃられるように農業体験であったりするっていう話はありだろうというふうに思っています。来場されてる皆さん方が、どちらかいうと若い層の方が多かったというふうな傾向が従来からあるというふうに思ってますので、そういった皆さん方が魅力ある体験とは、あるいは観光とは何かっていうところをベースにしながら、在り方をっていうか、それを拡大するような形、御指摘のありました1泊する、あるいは2泊するというような考え方を構築できないかということは前向きに考えていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　これも前から言われておりますが、日南町も文化的史跡であったり、そういうものはもう時期を問わずに見ることができるし、そういったものと組み合わせるというメニューづくりというのを、ぜひ山里Ｌｏａｄと協力して取り組んでほしいと思うわけなんです。その中には当然、学芸員的な人が地域にもおられますので、そういった人の活用もできるし、次にあります協働の精神にも十分合致するわけですが、そういった取組も進めていこうというような考えはどうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　まさしく議員おっしゃられるように協働、あるいは共創っていうところがこれの大事なところかなというふうに思っていますので、ですから、どういいましょうか、共創する前にいろんなところからの情報、あるいは事例あたりも参考にしながら、あるいは専門的なところを皆さんの声を聞きながらの企画の積み上げっていうか、そういうところも踏まえて、目的が基本的には1泊であったり2泊であったり、日南町の来ていただく、魅力を感じていただくっていうところのテーマをしっかりと目標をつくりながら、その在り方っていうのは模索していきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　5番、近藤仁志議員。

○議員（5番　近藤　仁志君）　町長の立候補、2期目の主要テーマであります、メインテーマであります共創・協働で進むまちへということです。ちょっと自分がこれを読んだときと、今町長の説明したのと、ちょっと認識のずれを感じたもんで。共創・協働というのは、町民と行政が共に創り、共に働いて進むまちを町長は目指しているんだなと

いう、自分はそういった認識を持ったわけなんです。町長のこの答弁に対しては、産官学が協力して、要するに町だけでなしに、よその企業であったり、大学であったり、金融機関だったりを巻き込んで日南町のまちづくりをしたいという答弁になっとります。それでちょっとおまけみたいに住民と書いてありますが、その辺の考え方ということですね、どちらにスタンスを、重きを置いておられるのか、この共創・協働という言葉の意味というものを再度お伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっとおまけで書いたつもりじゃないですけれど、基本はやはり住民だろうというふうに思ってますが、ただ、事業を計画したり、具体的な、どういいましょうか、ものをつくっていこうっていう話になると、官と住民だけではやっぱり限界があるんだろうと思います。よりよいものをさらにつくるっていうこと、あるいは、これからの時代は少しやっぱり特徴的なものだとか、そういうところって同じ計画するにしても必要な部分ってあるんだろうと思いますので、その部分はやはり外部の皆さんだとか、そういったところの意見を聞きながら、あるいは技術的な支援もいただきながらということではないかなというふうに思っております。場合によっては資金的な話っていうところもあるのかもしれませんっていうことです。ですから、ここで申し上げたいのは、やはりこれからの時代、先がなかなか見えないっていうふうに言われております。ですから、そこの中で新たなものを推進していこうっていう話になると、様々な、例えば他の市町村あたりの事例もそうだろうと思ってますが、そういったところを広く情報を収集しながら、意見をいただきながら積み上げていくっていうことが、最終的にはやっぱり町民っていうのは、もちろん、どういいましょうか、同意、同意言やおかしいけど、一緒になって頑張ろうよっていう話だろうというふうに思っております。とあわせて、やはり協働っていう話には、一方では住民同士の助け合いっていうところも必要な部分がたくさんあるっていうふうに思っておりますので、そういった意味で、事業ごとの考え方じゃなくて、全体的な捉え方として、こういうまちづくりで進めたいというふうに御理解いただければと思ってます。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　この答弁書を拝見したときに、ちょっと自分とのちょっと認識のずれというのを若干感じたわけで、やはり大学、企業との共創と、それから住民との共創という内容については、自分はやっぱり微妙に性質が違うと思うわけなんですよね。これ一くくりにしたら大変なかなか目標、着地点が見えないというような気がするわけで、行政課題を解決していくには、やはり企業や大学との共創でこれはよいと自分思いますし、それから地域に協力を求めるというような共創であろうと思います。また、資源活用をこれからやっていこうという形、観光であったり、農産物であったりの資源、日南町持ってる資源を活用していくには、やはり住民との共創が必要だと、自分とすれば。だけど、微妙にニュアンスが違うと思うわけなんですよね。

そんな中で、自分は残念ながら自分のエリアの中でしか物がなかなか見えませんけど、かつてから下谷中だたらの跡地の活用というものをうたってきました、言ってきました。その中で、教育委員会のほう、教育課のほうで調査していただきまして、町の文化財の指定を受けることができました。ただ、当初の、かつてのあれでは、そういうことをすることによって価値を上げて観光資源に活用していきたいという、何かな、方針というかな、思いが述べられました。そういった中において、こういう調査の時点からやはり町民との協働をすることで、より深みのある観光資源、いざ観光資源に活用する場合に、調査の段階から、その住民であったり、関心のある人であったり、それから山里Ｌｏａｄなどを巻き込んですることで学芸員的な人間が数多くできるわけで、いざ観光資源として活用したときに深みのあるガイドが誕生すると思うわけなんですが、残念ながら、今、教育課だけの調査にとどまっておるわけですが、この調査の段階から町民を巻き込んだことはできないのか、お伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　できないかっていう御質問でございますが、できないことではないというふうには思っていますが。ちょっと元に返りますが、共創・協働っていう言葉を使わせていただいたのは、議員のお考えももちろん正しいというふうに思っておりますが、どういいましょうか、あまり文言をたくさんつくるっていうことも分かりにくいのかなというふうに思っておりますので、そういった意味で最短距離の文言で整理させてもらったというのは、表現させていただいたのは御理解いただければというふうに思っています。

先ほどの一つの事例として、下谷中のお話をいただきましたけれども、当然、議員がおっしゃられた、例えば観光分野の中で皆さん方が加わって知識を知る、あるいは現場を知る、そんなことの必要性っていうのは、これからのありようとしては大事なことかなというふうに私自身も思ってますので、そういった現場での話はさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　担当されておられる教育課のほうの考えとして、やはり現地調査に住民を巻き込むことはよろしくない、邪魔になるというような考えがあるのか、それともぜひ一緒にやっていこうではないかという思いなのかを、教育長のほうにお伺いします。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　私も、近藤議員おっしゃられるとおりに、やっぱり住民を巻き込んだ形っていうのが理想だなというふうには思います。今のところ、下谷中については来年度、調査にかかりたいというふうなことの思いもあります。その中では、やはり精通した方々も山上の地域にはおられますので、そういう方々も巻き込んだ形で調査活動に入ってもらったりとか、あるいは一番人手がかかるなというのは、あそこのまた

草刈り等々なんですね。そういう部分でもあるというふうにも思ったりもします。そういう部分では、まちづくり協議会にも御援助いただければありがたいなというふうなことも思っていますし。ですから、一つの下谷中にいえば、そういういろいろな形で援助もしていただければありがたいなというふうなことを思いますので、ぜひ協力をいただきながら進めていき、最終的には国の指定に向けて頑張っていきたいというふうなことも思っておるところです。そうする中で、やはり観光の資源の一つの大きな目玉になるんではないかなというふうなことを思っておるところです。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　地元住民にとって大変歴史的にも関心の高い施設、史跡であります。そういった意味において、いざ教育課のほうで、ああ、済んだ、後はどうぞと投げられるよりも、やはり一緒になってすることで、より身近に感じることができるし、それからの活用についても話合いが持てると思います。してもらえたらでなしに、やはり期日とか、いついつどういうことがあるということを、やはりまち協であったり、また関心のある方にだったり、そういった方のつながりを持っていただくようにお願いしたいと思います。情報発信のほうもお願いしたいですが、どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　先ほどおっしゃられましたことっていうのは肝に銘じて、情報発信は十分したいというふうに思いますし、特にまちづくり協議会を通じてお願いするところはお願いし、参画していただくところは参画していただく。あるいは、一緒になって勉強会なども持っていくっていうふうなことっていうのもやっていきたい分野ではあります。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　５番、近藤仁志議員。

○議員（５番　近藤　仁志君）　中村町政２期目のスタートに当たって、一般質問させていただきました。やはりうたってありますように、日南病院の検討というのは、大変これから先、日南町が持続可能であるためには必要なことでありますし、また共創・協働という精神は、これは精神として町民、また他町のいろんな専門家の巻き込んだまちづくり等の提案をいただくというのも謙虚で大変重要なことだと思います。ぜひこの精神がぶれないように、２期目の中村町政が堂々としたものであることを祈念しております。

以上で一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　以上で近藤仁志議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　ここで暫時休憩といたします。再開を２時３０分からといたします。

午後２時１７分休憩

午後２時３０分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き一般質問を行います。

4ページ。

9番、坪倉勝幸議員。

○議員（9番　坪倉　勝幸君）　12月議会に当たりまして、一般質問をさせていただきたいと思います。

まず最初に、今後4年間、町長として町政を担当されることになりました中村町長には、引き続き町政の発展、住民の幸福のために御尽力をいただきますことを大きな期待といたしたいと思います。

質問の項目でありますけども、最初、みどりの食料システム戦略についてであります。農林漁業における生産から消費まで、環境負荷の低減に資する取組を推進し、持続可能な食料システムを構築することを理念として、環境と調和の取れた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律、いわゆるみどりの食料システム法が本年7月に施行されました。この法律では、町と県と共同して環境負荷低減事業活動の促進に関する基本計画を定めることになっていますが、現在の策定状況について説明を求めます。また、基本計画の概要についても説明を求めます。策定される基本計画は、ＳＤＧｓの取組とも重複する部分もあると思われますが、町内での具体的施策及び推進体制はどのように考えておられるのか伺います。

次に、農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画の策定について伺います。農業経営基盤強化促進法の一部改正により、市町村は地域農業経営基盤強化促進計画、通称地域計画の策定が義務化されました。各地域における農業の将来の在り方及び農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標を定めることになっています。地域計画策定までの期限は、あと2年余りありますが、策定に向けた協議を始める必要があると考えますが、今後どのように進められるのか伺います。農業委員会は、地域ごとに、将来を担う農業者ごとに利用する農地を定め地図に表示する、いわゆる目標地図の素案を作成することとされていますが、どのような取組をされ、目標地図（素案）を策定されるのか伺います。

次に、農業経営基盤強化促進基本構想及び地域計画には、農業の将来ビジョンに係る全体計画に耕作条件を改善するための基盤整備の推進を盛り込み、積極的に進めるべきだと考えますが、町長の考えを伺います。

次に、農業の将来ビジョンについてであります。これまでにも幾度となく質問、質疑をし、町長も答弁されておりましたが、令和2年に示された農業の将来ビジョンの実現に当たって、全体計画を策定し、進めると答弁をされてきました。策定状況について説明を求めます。あわせて、農業所得の向上対策についてどのように考えておられるのか伺います。

次には、移住・定住対策についてであります。求人と求職のミスマッチの解消について、平成30年に実施された就労雇用アンケートにおいて、求人と雇用にミスマッチが

あると指摘されており、その解消に取り組むと述べられましたが、その後どのように取り組まれたのか伺います。

また、特定地域づくり事業協同組合の活用について、これまでに、ぜひとも活用できる形を準備していきたい、きちんと運営ができるよう努力していくと述べておられましたけれども、その後の検討状況、準備状況について伺います。

地域おこし協力隊の有効活用について伺います。町の活性化のために町外の若者の力を取り込むことも必要であると感じますが、その一つの手法として移住促進、起業、就業を狙った地域おこし協力隊の活用を積極的に行うべきだと提案してきましたが、現状は十分な取組になっていないと感じております。隊員の募集及び定着に向けた取組をどう進めるのか伺います。

最後に、来年度の事業計画、予算編成について伺います。中村町政2期目がスタートしますが、現時点での課題への対応、そして将来のまちづくりのための投資など、町政推進のために来年度、何を重点に取り組まれるのか、事業計画及び予算編成の方針を伺います。

以上で終わります。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　坪倉勝幸議員の御質問にお答えしますが、2つ目の農業経営基盤強化促進法に基づきます地域計画策定についての、農業委員会は目標地図（素案）の作成にどう取り組まれるのかにつきましては、農業委員会の会長のほうから答弁をさせていただきます。

まず、みどりの食料システム戦略についてということの基本計画の策定状況についての御質問でございます。鳥取県では環境に配慮した持続的な農業生産を進めるため、県と市町村が共同で基本計画を作成するため、令和4年7月２２日に鳥取県みどりの食料システム戦略会議が立ち上がりました。１１月の１４日には、県が作成した計画の骨子案が市町村等へ提案され、共有、意見聴取がされました。今後、計画案の作成、市町村等への意見の聞き取りを経て、今年度内に国との基本計画案の協議を行う予定となっております。

その鳥取県のみどりの食料システム計画の骨子案の内容でございますが、基本的には推進目標として、年度で申し上げますと、これから5年間という内容でございます。大きく3つありまして、生産現場での環境づくりということで、例えば目指す姿とすれば、化学肥料使用量の2割低減、化学農薬使用量の1割低減、有機農法、あるいは特別栽培面積の拡大ということで2,０００ヘクタール等があります。販売の確保につきましても、販路の拡大であるとか販売の促進、農産物の見える化、例えばその有機だとか特別栽培農産物の見える化という意味でもあります、販売店舗の紹介であるとかネットワーク化、それとみどりの食料システム戦略制度の普及ということであります。3つ目が、消費者

等の理解の促進ということで、目指す姿とすれば、環境負荷低減栽培への理解だとか、安心安全な農産物等への理解というのが一つの目標として、骨子案として提案されている段階でございます。

なお、スケジュール的には、先ほど申し上げましたが、今年度中ということでありまして、２月から３月の段階で、いわゆる戦略会議のほうを開催しながら、国との基本計画案の協議をして申請をするというようなスケジュール感になっております。ですから、町内での取組はどのように進めるかという御質問がありましたけれども、そういったことを確定しながら、関係機関、あるいは町としての再生協も含めてですが、推進に向けての取組を進めていきたいというふうに思っております。

次に、町内での取組を、ごめんなさい、進めるかという話の、ちょっと先ほどの御質問にかぶりますが、基本的にみどりの食料システムの戦略は、２０５０年までにということであります。先ほど申し上げましたのは、鳥取県の素案で、将来的な今後のこれから５年間ということで説明をさせていただきましたが、国の戦略自体は２０５０年までに農林水産業のCO_2ゼロエミッション化、いわゆる実質ゼロということではありますが、そういった目的であるとか、化石燃料を使用しない園芸施設への移行、あるいは化学農薬の使用量の５０％低減、化学肥料使用量の３０％低減、耕地面積に占める有機農業の割合を２５％に拡大などを目標としております。生産力の向上と持続性の両立を、革新的な技術、生産体系の開発で実現するものであります。また、システム戦略の全体のイメージでは、生産現場だけではなくて原料の調達から流通、消費者までの全体で対応し、持続可能な新たな食料システムの構築を掲げています。

現在、世界的な社会情勢不安により、肥料や資材の高騰が続いており、農業経営は非常に厳しいものとなっております。コスト面で有利であった輸入品などの調達が困難となる中で、国内産の利用や減農薬、減化学肥料の取組、有機肥料、緑肥による地力増進などの転換が急務となってきました。新しい取組は基本計画に沿って進めてまいりますが、当面は堆肥などの地域資源の活用や生産体制の整備に向けたスマート農業の推進、研修生制度を活用した多様な生産者の育成などを進めてまいりたいというふうに思っております。

続いて、農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画の策定について、農地の在り方についての話合いについての御質問でございます。基本は町内７地域ごとの話合い活動を引き続き実施していきたいと考えております。これからの地域農業の在り方を検討するため、担い手だけではなく、地域の実情に応じて、例えば自治会の代表、あるいは隣接する集落の農業者といった幅広い関係者にも参加を呼びかけ、それぞれが役割を担いながら、農業の面から見た地域づくりについて何度も話合い重ねることで、持続可能な農業経営を各地域で実現させていきたいと考えております。その推進に当たっては、農業委員や農地利用最適化推進員をはじめ、県や関係機関とも協力し合って進めていきたいというふうに考えております。

次に、農地基盤の整備方針についての御質問ですが、地域での話合いの中で基盤整備を要望する声が高まれば、町としては支援していきたいと考えております。現在の基盤整備事業は、農業の省力化や生産性向上だけではなく、担い手の利用集積の促進も大きな目的の一つとなっております。今後さらに高齢化や農業者の減少、耕作放棄地の拡大といった、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中、農地が利用されやすくなるよう、地域での話合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を、まずは明確化していくことが重要であります。その上で、課題を解決する手法として基盤整備事業を検討していただき、取り組んでいく必要があります。関心がある地域があれば、鳥取県や関係機関とともに話合いに参加させていただき、現状把握や事業内容への理解を深めてまいります。その上で、計画的に事業化が進むよう働きかけをしていきたいと考えております。

続きまして、農業の将来ビジョンについて、ビジョンの実現のための全体計画の策定状況についての御質問ですが、農業委員会により農業ビジョンが策定された後、令和３年２月に新たに定めた農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想に基づき、令和の１０年を目標年として、効率的かつ安定的な経営体の育成と農地利用を図っているところでございます。課題解決に向け、すぐにでも対応できる課題については、既に着手しています。例えば、スマート農業の実践に向けて、農業用ドローンや自走式草刈り機などの導入を支援したり、地域ごとに話合いを継続して開催することで、基盤整備事業につながったりしています。その一方で、新規就農者の確保や農事組合の法人等の後継者育成、有機無農薬栽培等による産地の差別化といった取組について検討はしているものの、現時点では十分な解決策や成果が出ていない状況もあります。さらには、目まぐるしく変わる異常気象やウクライナ危機など、世界的な不安定になる中、農業分野においても脱炭素やＳＤＧｓの推進が求められており、その推進策の一つとしてみどりの食料システム戦略が策定されました。農家を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、食を取り巻く環境は今大きな転換期を迎えております。自給率の向上の課題解決のためにも、農家をやめるわけにはなりません。引き続き所得確保、農業の持続性確保に向けて、農家、地域の話合いを進めるとともに、ＪＡ鳥取西部や日野農業改良普及所といった関係機関と連携しながら、目標達成に向けて努力してまいりたいと思います。

次に、農業所得の向上についての御質問ですが、現在、農家の所得向上につなげるため、トマトの選果機の改修や、スマート農業の推進による省力化や、コスト低減に取り組んでおります。トマトの選果機の改修につきましては、令和５年３月中の完成を予定しております。この改修により、スピーディーかつ高精度な選別が可能で、忙しい収穫時期の労力の削減と、日南トマトのブランド力の向上につなげたいと考えております。また、スマート農業に向け、農事組合法人等に対してドローンや直進アシスト機能つきの田植機などの導入支援を行い、作業の省力化とコスト削減につなげてまいりました。所得向上のためには、販売価格の向上や販売量の拡大、生産コストの軽減等の生産性向

上や付加価値が重要であります。基本的に農家の所得向上がなければ若者の魅力につながらず、農地の維持にも懸念が生じます。根本的に、第一次産業による生産物の価格は自らが決定する仕組みが全国的には広がりつつあるものの、地方では従来型が残っていると感じております。今後は、価格を自ら決めて売っていく考え方、仕組みを取り入れるとともに、特に本町の米生産分野においては原価以上の所得につながるよう模索と挑戦が必要です。モチ米であったり、酒米であったり、無農薬、オーガニック、輸出、加工などをキーワードに検討を進めてまいります。

続いて、移住・定住の求人と求職のミスマッチの解消の取組についての御質問です。平成３０年度に、町民のうち1,０００人を対象としたまちづくりアンケートを実施しました。その中で、雇用に対する満足度が全ての世代において低い結果となり、雇用の場を求める声を多くいただきました。一方、ハローワーク根雨管内の有効求人の倍率ですが、全国、米子管内と比較しても高い状況であり、医療、福祉、林業など様々な業種において求人がある状況であることが分かりました。この求人と求職のミスマッチを検証するため、令和元年度に日南町雇用就労アンケートを実施いたしました。アンケート結果からも、まちづくりアンケートと同様の結果が得られ、６０代、７０代の雇用の場を求める声も多く寄せられました。それを受けて、令和２年度から鳥取大学、ソフトバンクとの連携事業で、日南町「ショートタイムワーク」プロジェクトを立ち上げ、雇用の場を求めるほうと働き手を求める町内事業者をマッチングする仕組みを工作するため、協議を重ねております。今までに、令和３年の１２月の１１日、令和４年の３月の１３日、令和４年の６月３日の３回、おしごとバンク交流会を開催し、５件のマッチングが成立しております。町内の事業者にも交流が浸透してきており、毎回１０社程度の事業者に御参加をいただいております。今後、事業推進を図るため、現在の検討会の体制を、令和６年度から事務局を設けての運営を目指し、体制整備を進めてまいりたいというふうに思っております。

次に、特定地域づくり事業協同組合の検討状況についてでございます。現状としましては、行政が主導する形での検討は行っておりません。令和２年度に法律が施行され、本町においても日野郡での勉強会へ参加し、検討を行ってきましたけれども、建設業であるとか林業における地ごしらえ、植栽の作業などは対象の業種外となっておること、あるいは年間を通じての仕事の確保、本町にとって課題が多いことが検討の進まない要因であります。本事業に取り組む場合、組合設立までに年間を通じた事業の仕事の確保、安定した組合の運営組織の構築、派遣の人材の確保を固めた上で取り組むべきであると考えております。今後も引き続き町内事業者、商工会とも連携を図り、多くの御要望をいただくようでありましたら、前向きに検討していくことを考えております。

次に、起業、就業促進のための地域おこし協力隊の募集、定着をどう進めるかという御質問ですが、令和４年度から、町の活性化について移住者ならではの視点、観点で町内での起業を目指し活動をいただける地域おこし協力隊の募集を開始しました。２種類

の地域おこし協力隊を募集し、１つ目は、週５日のうちの３日間を活動支援団体となる各事業体の活動に参加しながら、残りの２日間は地域課題解決に向けた起業を目指していく起業・半域型ということと、２つ目は、商工会の経営支援専門員のサポートを受けながら、業種を問わず町内で起業を目指していく起業支援型であります。起業支援型については本年度応募がありませんでしたが、起業・半域型については今年度２名を採用し、活動支援団体での活動を行うとともに、情報発信、起業により業務委託などを行っております。町のホームページでの活動を随時発信しております。来年度以降も引き続き地域おこし協力隊制度も活用し、移住者の呼び込みはもちろんのこと、町内での起業者を増やしていきたいと考えております。

また、ＩＵターンの皆さんによる事業継承などについても、日南町の商工会と連携を図りながら推進していく必要があると感じておりますし、インターン型の地域おこし協力隊についても検討し、地域おこし協力隊へ申請前に日南町の現状や課題を知ってもらい、自分自身がどのように活動していくかというようなイメージしてもらうことで、地域おこし協力隊の申請がしやすくなる仕組みについても構築していきたいというふうに考えております。

続いて、来年度の事業計画、予算編成の方針についての御質問ですが、基本的となる考え方については、引き続き、第６次の総合計画を柱としまして各種事業を展開していくものであります。その具体的な計画として、第２期の日南町人口ビジョン・総合戦略、行財政改革の実施計画、過疎地域の持続的発展計画、公共施設等の総合管理計画、そしてグリーンドリーム計画などの各種計画との連動と整合を図りながら、各事業においてＳＤＧｓの目標達成に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

第八波に突入したと言われる新型コロナウイルスの感染症は全世界を一変させ、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー資源の高騰からとどまる気配のない原油・物価高騰への影響、さらに急速に進む円安への対応など、世界経済はますます将来の見通しが立たない状況にあります。まずは、町民の皆さんが豊かさや幸せを感じ、この日南町で生涯を過ごしたいと思っていただけるように、町民の皆さんの生命と健康、そして生活や暮らしをしっかりと守り抜くことを最優先とした事業を実施したいというふうに考えております。変化が激しく、先行きを見通しにくい社会情勢の中で、本町が持続可能な発展と成長を続け、各種計画や施策、事業を着実に成果へとつなげていくためには、時代の流れと町内外のニーズを的確に把握し、そして予測し、将来あるべき姿と方向性を見据えた事業構築が必須であると認識しております。新型コロナの感染症対策や、原油・物価高騰対策をはじめ、人口減少や少子高齢化対策などの喫緊の課題に加え、デジタル田園都市構想に基づく行政ＤＸをはじめとしたデジタル化の推進、そして脱炭素社会を実現するためのグリーントランスフォーメーションといった新たな時代の潮流への対応も求められているところであります。

これら様々な課題に機動的かつ効率的に対応するには、国の総合経済対策や鳥取県の

政策や補正予算に注視しながら情報収集に努めるとともに、前倒しして行うべき事業につきましては財源を確保しつつ年度内の補正予算計上を行うことも考慮し、柔軟な対応と根拠に基づく予算編成に努めるよう、先月の１１月４日に開催しました予算編成説明会におきまして、私のほうから職員に対して示達したところではございます。加えて、歳入における財源の確保についても、これ以上厳しく、そして重要課題になることが予測されます。令和３年度決算で地方交付税が増加したことはあくまでも臨時的な措置であり、もろ手を挙げて喜べるものではございません。自主財源の増加を目指しつつ、これまでにも増して、国、県補助金に加えて、宝くじの助成金や財団等の助成金など、有益な財源を確保しながら、その上で地方債の発行については最終手段とし、将来の世代の負担とならないよう、予算編成の過程の中でしっかりとした精査を行うよう指示しております。

以上、坪倉勝幸議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、２点目の農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画の策定についての、農業委員会は目標地図作成にどう取り組まれるかにつきましては、この後、農業委員会会長から答弁をいたします。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　梅林農業委員会会長。

○農業委員会会長（梅林　　操君）　坪倉勝幸議員の御質問にお答えいたします。

今年、５月２０日の通常国会において、農業経営基盤強化促進法等の改正案が可決成立され、この改正により人・農地プランが法定化し、市町村は地域計画を令和７年３月までに策定することが求められることとなりました。地域計画は、農地１筆ごとに、将来において農業上の利用を行う地域、保全や林地化を進める区域に選別を行い、守るべき農地を明確化し、農地の効率的かつ総合的な利用を実施していくことが主たる目的であります。地域計画の策定に向けた農業委員会の役割は、１０年後に目指す農地の効率的、総合的な姿を明確化した図面である目標地図の作成であります。

御質問の目標地図の作成につきましては、既に作成されている中山間地域等直接支払制度の集落戦略や、実質化された人・農地プランの情報を基に、農地の出し手と受け手の現状を把握しながら目標地図の作成を進めていく予定でございます。また、農地利用の最適化は農業委員会の主たる使命であることから、会合等において農家の皆さんに意向を聞きながら、目標地図に反映できるよう併せて実施してまいります。

以上、坪倉勝幸議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、詳細説明につきましては、事務局から申し上げます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　まず、みどりの食料システム戦略の基本計画についてでありますけども、県が主体となって進めて、現在おられるということでありますが、町として、県の例えば骨子案などが提示された折に、どのような意見を述べられています

でしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　坂本農林課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　今回、県のほうで県下全体で基本計画の策定をということで出ております。現在、骨子案をいただいたところでありまして、具体的に町としましてこういったことということについて、まだ提案等はしていない状況にあります。これから詰めていく中で提案のほう、この中身を見て、あれば町の独自のものというものもしていきたいという気はありますけども、現状ではまだこの骨子案のとおりということで、まだ特別にいってないという状況でございます。

○議長（山本　芳昭君）　9番、坪倉勝幸議員。

○議員（9番　坪倉　勝幸君）　県の進め方も若干遅れとるようでありますけども、3月までにつくるということですので、日南町の現状を踏まえた提案等も積極的に行っていただきたいと思います。

それで、具体的に計画が定まらないと、具体的な取組について言及っていうのは難しいのかもしれませんが、しかし、これまで日南町としても、ゆうきまんまん構想、打ち出しておられて、これの推進もされております。もう一つには、今年、今受付中でありますけども、化学肥料2割減を条件とした肥料高騰対策、逆の言い方ですけども、肥料高騰対策の中で化学肥料2割減ということが求められておりますけども、具体的に堆肥の有効活用、そして施用拡大についてはどのようにお考えですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的にはするべき内容だろうというふうに考えております。鳥取県のみどりの食料にしてもそうですし、国が示す方向性については、その在り方ではないのかなというふうに思ってますし、また、こうした、どういいますか、日南町のような米作りの主体とした農業を営んでいる町にとっても、それ野菜も含めてですが、こういった新たな考え方っていうのは大事な、大事なっていうか、今後の進め方の中ではあるべき姿だというふうに思ってます。特に思っているのは、やはり、どういいましょうか、消費者の皆さんの理解っていうところもこれから特に大事になってくるというふうに思っておりますので、これから、どういいましょうか、丁寧な仕組みづくり、そして消費者の皆さんへの、どういいましょうかね、理解というのが大事だろうというふうに思っています。そのことを踏まえると、逆に生産者の皆さんも安全安心っていう、あるいはおいしさっていうところをより高めていく取組も同時に必要ではないのかなというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　9番、坪倉勝幸議員。

○議員（9番　坪倉　勝幸君）　確かに消費者理解っていうのはすごく大事です。今、国のほうでも食料・農業・農村基本計画の改定を議論されておりますけども、その中にも農業の消費者理解っていう項目が新たに加わるような議論もありますが、だけども、今後、計画が決定されれば、最終的に２０５０年までですけども、化学肥料2割を削減し

なくちゃいけないっていう、もうこれ義務のような形で出てきます。鳥取県もそれに呼応して、国の計画よりも前倒しで２０２７年には２割削減を実現するということになってます。これは、県の計画じゃなくて市町村計画も同じでありますから、町としても５年間のうちに２割削減であります。水稲だけではありません。畑作物もそうであります。ですから、町として早めにその対応、特に堆肥の製造、あるいは供給体制、これらについては早急な構築が必要だと思いますが、どうですか。

○議長（山本　芳昭君）　坂本農林課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　堆肥の供給体制等になりますと、現状、今、日南町堆肥センターということで町が町営で設置したところを委託をしております。今のところ、まだ堆肥の製造には余裕がありまして、その堆肥を水稲を中心に今使っていただいている状況です。また、町内には酪農さんもおられまして、大分数は減ってしまいましたが、地域によってはそちらの堆肥を活用されているという状況があります。引き続き堆肥の生産につきましては、最低限現状維持のところはありますし、日野町にも日南町と同じようにもみ殻堆肥を生産されている酪農の方もおられます。日南町のほうは全量、今のところ補助事業で堆肥の使用につきまして補助をしております。そういったところを、事業のほう拡充もしながら、また堆肥散布についてもなかなか機械等が老朽化してきてというところがありますけども、令和３年度の予算の中で堆肥散布機のほうも購入させていただいておりますので、そういった整備も続けながら町内の供給体制のほうもしっかりと維持、整備していきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　みどりの食料システム戦略基本計画は、世界的に今ＳＤＧｓとか、地球規模での環境破壊を改善をするという取組の中でも避けて通れないことであろうと思いますし、環境の町、日南町にとっても大きな課題でありますので、早急に方針を明確にして、農業者に理解を求めて進めていただきたいと思っております。

　次の、いわゆる地域計画の策定についてでありますけども、これ本当に地域での話合いが一番重要な鍵になってきます。地域で、ここに町長、自治会等も含めたっていうふうに書いておりますけども、土地持ち非農家も含めた農業者全体でどうしていくのかっていうところを、本当に徹底した議論が必要だと思っております。これまでにも人・農地プランの実質化ということで取組をされておりましたけども、実質化とは形上なってますけども、それに向けての地域での徹底した話合いっていうのがなされていないと思っております。それは、特に農業委員会の役割も大きいと思いますけども、町として、この徹底した話合いをどのように進められる、具体的にどういう形で進められようとしていますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　人・農地プランの話合い状況あたりも、地域ごとにかなり、どういいましょうか、頑張っている地域とあまり進んでない地域があるのかなというよう

な、実態から見るとそのように感じております。ただ、これからは、このみどりの食料システムを含めて、やはり一番の課題、地域の皆さん等雇用しても、農業に携わる、特に専業的な皆さんの継承がなかなかできにくい、予測しにくいというような、いわゆる人材不足っていうところの声もあります。ですから、そういったことを背景にしながら、今後の地域の農業のありようっていうことをやっぱり考えていくっていうことが大切かなというふうに思っておりまして。そういったことも含めて、本当に将来に向けて、今６０代、７０代の皆さんが中心になって、特に法人のほうは頑張っていただいている実態がありますので、その先を見据えたときに新たな課題っていうか、現時点での課題も含めてですが、さらに明確化になるんだろうというふうに思ってますので、そういった観点も実態予測も踏まえながら、地域でのやっぱり話合いを進めていただきたい。そのためにどうしたらいいかっていうことは、課題解決っていうのは地域だけではなかなかできない部分もたくさんあるというふうに思ってますので、そういったところを、課題を新たにしながら、解決に向けた取組を推進していく必要性は感じておるとこであります。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　先ほど町長、個々の農家の事業継承というようなことも触れられましたけども、農地をどう使うかっていうことの中には、担い手をどう位置づけるか、確保、育てていくのかっていうのが当然入ってくるわけですよね、この地域計画の中にも。ですから、地域全体として集落の農地をどう守っていくのか、その守った農地でどう営農を継続していくのか。地域の中に中核となる担い手がいないとすれば、どうつくっていくのか。地域住民の中から全員で背中を押してつくるのか、あるいは地域外から呼んでくるのかということも含めて具体的なところをやっぱり議論をしないと、人と農地の問題ですから。農地だけじゃなくて人の問題が特に重要だと思いますので、また後ほども触れたいと思いますけども、そこの辺のところを十分に議論をしていただきたいと思いますが、しかし、その集落、全国的にもそうなんです、集落の話合いを進めるリーダーがいない、コーディネーターがいないっていうのが全国的な課題なんです。ですから、国は市町村がそういう活動をするときにコーディネーターを費用を支援しますよという制度をつくったんです。日南町でもかつて中山間地域のときに地域連携推進員というのを、私の提案に沿って採用していただきましたけども、このたびも集落の話合いを進めるためのコーディネーター、国、制度をつくってくれましたから、活用して進めないといけないと。地域の住民だけだとなかなか議論が進まない。そこに農業委員や最適化推進員が加わって、リードしてくれればいいんですけども、現状、失礼ながら、農業委員や農地最適化推進員の方では少し荷が重いのかなという気がいたしております。それはあまりにも地域に近過ぎるからという私は思いをしていますんでありますが、今後の集落での話合い、地域での話合いについて具体的にどういう形でいつの時期から始められるのか伺います。

○議長（山本　芳昭君）　髙橋農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（髙橋　裕次君）　失礼します。先ほど議員がおっしゃられました今後の予定でございます。答弁のほうでも書かせていただいておりますが、現在、日南町内では、中山間地域等直接支払制度を使った集落協定で取り組んでおられます集落、また多面的機能で取り組んでおられます集落等がございます。この集落につきましては、農地を維持管理していくという中で、今後5年間という縛りの中で取組を進めておられますので、現在、そういった集落協定の組織があるならば、そこを元にしながら地域のほうへ話合いに出向いて、人と農地の問題につきまして話合いを進めてまいりたいというふうに考えております。

先ほど議員がおっしゃられました農業委員、最適化推進員の活躍、活動につきましては、今回、目標地図の策定ということで農業委員の活躍、活動の場が定められておりますので、この場を、この機会を契機に農業委員の皆様のほうにも積極的に地域のほうに関わっていただきまして、この目標地図の作成について取り組んでいきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　9番、坪倉勝幸議員。

○議員（9番　坪倉　勝幸君）　答弁の中でいただきました中山間地域等直接支払制度の中の集落戦略とか、現在の人・農地プランをベースにということも答弁いただいておりますけども、集落戦略、これ多分ほぼ実態、今後の計画づくりに反映できるようなものになっていないと思います。多分、現状のところに丸を5年間つけていったというのが大部分の集落戦略だと思いますので、そこの辺の扱いは今後話合いの中で気をつけていただきたいと思っております。

それで、守るべき農地を明確にするという中で、守るべき農地は当然地域計画の中に入れますけど、守れない農地についてどうしていくかっていうところがもう一つの問題になります。そこで、農山漁村活性化法に基づく活性化計画を併せてつくられませんか。どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　髙橋農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（髙橋　裕次君）　先ほど議員がおっしゃられました、守るべき農地が難しい農地の取扱いについてでございます。今回の目標地図の策定に当たりまして、今後、農地として維持管理していくことが難しい農地につきましては、将来的には非農地、非農地になった後には林地化やその他の目的等によります農地の活用ということが想定されるというふうに思っております。

具体的な内容につきましては、国のほうからどういった内容が使えるかというようなことも具体例が出されておりますけども、例えば景観作物でありますとか緑肥、植林、または鳥獣被害の緩衝地帯というようなあたりにつきましても、国の例としては挙がっておりますが、それが日南町のほうとして求められるものなのかどうなのかということは、これから農家の皆様とお話合いをしながら、この農地の活用の仕方、守るべき農地

が難しい場合につきましてはどうするべきなのかということを今後、検討してまいりたいというふうに思っております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　今、局長が一部紹介されましたけども、例えば粗放的な農地として放牧用地に使うとか、景観作物の植栽、ビオトープ、あるいは蜜蜂の蜜源作物栽培、そして林地化というようなことが。それを計画、日南町内全ては無理だと思いますけども、地域によっては活性化計画としてまとめることによって国の支援が受けられるということですよね。ですから、守るべき農地については地域計画でしっかり落とし込んでいく。１０年先、２０年先にちょっと無理だなというところは、やっぱり集落の話合いで景観作物とか、蜜源作物とか、ビオトープとか、そういった使い方も考えられる地域もあるんではないかなと思います。だから、そういうものをまとめて、地域計画と併せて農山漁村活性化法に基づく活性化計画をつくってはどうでしょうかという提案であります。これを同時につくってる市町村、まだ全国的に地域計画自体が少ないんですけども、先行的にモデルと指定された地域については両方つくられとるところもあるんで、参考にしていただければと思いますが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　いずれにしても、今回、町内をぐるぐる回る中で、そういった現時点で利活用できてない農地と、水田としてできてないというところのやっぱり場所もかなり生まれてきたのかなというふうには実感をしております。そういった意味で、今後の展開として、先ほどおっしゃられた、作る場所と作らない場所についての計画づくりっていう話がありましたので、御提案いただきましたので、そういったことも観点を踏まえながら、それぞれの人・農地プランで地域ごとに話す中で、どういいましょうか、近くに、例えば畜産等をやっておられる皆さんがあるなら、連携しながら放牧の用地として使うとか、そんなところがこれからは地域でないとなかなか分かりにくい、実践しにくいっていうところがあるので、そういった内容も含めて地域の中で話合いをしていきながら、方向性がつくれるなら、そういう方向性も加えていきながら協議の場をつくっていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　人・農地プランの法定化に伴う地域計画の策定でありますけども、先ほど来、答弁もいただいておりますけども、農業委員、最適化推進員の果たす役割っていうのは大きいと思いますので、梅林会長も認識を先ほど明らかにされましたけども、農業委員会の主な任務、最も重要な任務として位置づけられた農地の最適化、農地利用の最適化ということになっております。それは、担い手への農地の集積、集約、遊休農地の解消、そして新規参入の促進、この３つが農地の最適化、農地利用の最適化と位置づけられております。この３つのことは、いずれも地域計画策定の上で非常に大きなポイントとなるところでありますが、農業委員会、そして最適化推進員の皆

さんに本当に頑張っていただきたいと思いますが、農業委員や最適化推進員への意識づけ、そして活動支援、どのようにお考えでありますか。

○議長（山本　芳昭君）　梅林農業委員会会長。

○農業委員会会長（梅林　　操君）　現在、目標地図の作成に当たって、農林課農政室と作成に当たる工程表について協議しております。これまでに人・農地プランの話合いや座談会を、各校区で農林課、農業委員会、農地最適化推進員で進めているところですが、この７月に農業会議よりタブレット９台が貸与されております。８月に行いました農地パトロール結果を農地最適化推進員が現在タブレットに落とし込む作業を行っております。基本的には農振農用地、中山間地直接支払制度に加入している農地を中心に、各農家の意向を基に、各地域の認定農業者、認定法人へ集積することを基本として考えておるところでございます。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　工程等について説明がありましたけども、農業委員や最適化推進員の意識づけ、そして活動への支援、本当に具体的に答弁いただけなかったんですけども、まず意識づけが非常に大切になってくると思います。移動農地銀行あたりに農業委員や最適化推進員が来られていますけども、本当に真剣味がないっていいましょうか、地域の農業に対する意識が非常に低いと感じております。元県の農業会議会長は、本当に日南町農業委員会、法改正に伴う意識改革ができていないなというふうにも言われておりましたけども、本当に意識改革を求めていきたいと思っております。

その地域計画にも、後から述べます水田農業ビジョン等にも関わってきますけども、地域計画の中に基盤整備等についても議論を上げていただきたいと思いますし、計画の中に盛り込むような形をぜひつくっていただきたいと思います。後から出てきます農業の所得向上とかにも非常に大きく関わってくることでありますし、担い手への農地集積、集約等にも非常に深く関わる課題だと思っております。現在の農業者の自発的なっていうところはなかなか目指さないのかもしれません。やっぱりある程度、行政側から将来の農地、農業、農村の在り方等を見たときに、再度の基盤整備っていうのはやはり必要だと思います。特にスマート農業の地域間格差がこれから全国でますます広がってくる可能性があります。特に日南町のような中山間地域、狭小田においてはスマート農業の格差が広がるということも懸念をしておりますので、ぜひそれも組み入れていただきたいと思っております。

そういったことも含めて、農業委員会が令和２年８月に示されました将来ビジョン、これの取扱いについて、一昨年１２月の議会で聞いたときには、町長は全体計画をつくると、そして、ビジョン実現のために取り組むと答弁をされておられました。ですが、いまだにできていないということでありますし、本日の答弁では、基本構想とかというものに代替をされたようなふうに受け取りましたけども、確かに日南町、一番大きなものは経営基盤強化促進法に基づく基本構想であります。それに加えまして、日南町水田

ビジョン、さらには水田フル活用ビジョン、これらあたりを総合的に見ると、何となく方向性は見えてくるんですが、具体性がやっぱりない。例えば農業振興計画のようなものをつくって、ビジョンの、私個人的には農業委員会が苦労してつくられたビジョンはあまり将来を見越した明確なビジョンになっていないという気はいたしますけども、そのビジョンはビジョンとして、農業振興計画というようなものをやっぱり一体的に整理する必要があるではないかなと感じますが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　令和の２年に日南町の農業の将来ビジョンというのを農業委員会が中心となってまとめていただきました。ここの内容につきましては、私は本当にそのような動きが現時点でも動いているというふうに思っております。ただ、議員おっしゃられるように、計画数値っていうか数値化してないっていうのは事実でありまして、この辺を将来に向けての在り方っていう中で数値化していく。それに向けて目標として進めていくっていうことは、私は大事なことかなというふうに思っておりまして、また、改めてその辺の数値化に向けての取りまとめをしていきたいというふうに思っております。

その中で、やはり少しずつですが、具体的に現場のほうで動いてあるものだとか、考え方が進んでるっていうことは言えるというふうに思っておりますので、全てとはもちろん申し上げることはできませんけれども、そういった考え方の中で、あるいはこれからも含めて示唆された内容ではないのかなというふうには思っておるところでありますので、そういった新しい考え方も含めて記載してあるというふうに私は思っておりますので、改めて具体的な全体計画というのはつくっておりませんけれども、改めて今回も含めてですが、その方向性のビジョンに対する計画性の基本はつくっていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　ビジョンができとるんで、ビジョン実現のための工程表、目標っていうのがぜひあったほうがいいと思いますので、先ほど作るって言われましたから作っていただきたいと思いますが、いつまでに作られますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　少しやっぱり打合せっていうか、単なる作るだけではなくて、実現性のある数字っていうものを作りたいと思っておりますので、お時間をいただければと思っていますが、下に置くつもりはありません。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　２年間、下に置かれておりましたので、ぜひこれから上に上げて進めていただきたいと思います。

農業所得の向上対策についてであります。町長の思いと私の思いはそんなには変わらないと思いますけども、まず生産コストの低減であります。これをどのように進めてい

くのか。それは物財費、物財費といいましょうか、肥料、農薬等の資材、そして農業機械とかっていう、いわゆる物に対するものと、人の問題があります。物財についてはある程度補助金もあったりして、いろいろやりますけども、人の活用っていいましょうか、雇用っていいましょうか、労働力の確保、これが非常に大きな問題でありますけども、その点はどのように捉えておられますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今回の公約の一つとして、私、第一次産業を元気にしたいという表現をさせてもらってます。その中で、やはり経費を下げるっていうことはもちろんそうですけれども、基本的には所得を上げるっていうことを私は第一義に考えるべきではないのかなというふうな考え方を持っております。最終的にはやっぱり人が継承する形の営みにしていかないと、そのためにはやっぱり所得を上げるしかないのかなと。優先順位からいくとっていう意味です。ですから、所得があることによって若い人たちの魅力化につながる、そういう考え方を優先すべきではないのかなというふうに現時点では思っておりまして、そのために、じゃあどうするかっていうことが大事であるので、先ほど申し上げましたようなキーワードっていうような捉え方、あるいはみどりの食料システム戦略あたりも、新しい考え方も出てきました。一方で肥料等が高騰して、物価が高騰してるっていう現実もありますので、そういった背景はありますけれども、基本的には、まずは所得を上げて、例えば、米でいえば原価を、当然それ以上っていうのを原則っていうか目標っていうのを立てるとか、そういったことがまず大切ではないのかなというふうには思っております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　確かに所得向上には売上げを上げていくというのも大切です。町長が言われるように、そこが一番かもしれません。ですけども、最近の市場主義の経済流通の中で、生産コストを販売価格に転嫁できないという実態があるわけです。ですから、そこを町としてどう補っていくのか。究極的には町が買い取って、町が売るのが一番いいと思います。かつて、株式会社神戸市と言われるぐらい神戸市はいろんな事業に手を出してきました。そして、奥出雲仁多米株式会社。町は２０億とも言われるような公費を投じて仁多米の地位を確立してきました。やっぱりそういったところまで踏み込まないと、鳥取西部農協では残念ながらそういった取組がほぼ期待できません。町がやるしかない。

　もう一つは、町内にも農業法人の中で自主的に米を販売されておるところがあります。そういったところはそれでいいっていうか、そこはどんどん伸ばしていただきたいんですけども、大多数の農家の方々はやっぱりそういった取組につながっていないということでありますから、町としてその販売に関わる対策をできたらと思っております。かつて、地域振興公社は米の販売をされておりましたが、非常に中途半端で、農家に利益を還元するようなところまでいってません。先ほど仁多米の話をしましたが、若桜町は、

昨年ですかね、町営の精米所を造って精米の販売を始められました。今、国が推進してるのが、米粉であります。日南町のコシヒカリやヒメノモチを米粉にするよりも、直接食べてもらったほうが生産者としてはありがたいのかもしれませんが、しかし、六次化、加工によって農家所得が増えるならば、それも一つの方策だと思いますが、町長も高付加価値化っていうことを述べておられます。六次化も一つの方法だと思いますが、その高付加価値化に向けて、具体的にどのようなビジョンをお持ちでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　すぐすぐ答えができるものではないのかなというふうには思っておりますが、目標は、先ほど申し上げたとおりです。そのためにどうしたらいいかっていうことをやっぱり考えていくっていうのがこれからのありようだろうというふうに思っていまして、昨日も話がありましたが、おとといか、モチ米の再利活用だとか、酒米だとか、オーガニック化にするとか、そういったやり方っていうのも一つのヒントになるんではないのかなというふうには思っています。加工するっていうこともちろん思ってますが。ですから、具体的にはこうすればこげになるっていう具体的なものはありませんが、やはり町内の中でもいろんな取組を、検証も含めながらやっておられるところもありますので、そういったところが具体的に、最終的に所得につながるのかどうかっていうところも、そういった検証もこれから町内では必要ではないのかなというふうに思っております。

議員おっしゃられたように、今、米で申し上げると、半分が大体直販、相対いうか直販をされている数字的な割合でありますので、ですからそういった皆さんも相対、どういいましょうか、販売をされてるっていう話でありますので、そういったところを集結するのか、拡大するのか、情報共有するのかっていうやなことも、これから一つの売り方の在り方ではないのかなというふうに思っておりますので、そういった取組を、とにかく法人の皆さん等も話合いをさせていただきながら、現状把握と今後の展開について議論を、意見交換をさせていただきたいなというふうに思っております。現時点では、こうという話はありませんけれども、いわゆるビジョンにも書いてありますけども、どういいましょうか、差別化による有利販売っていうのをやはり考えていく必要性はあるというふうに思っております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　9番、坪倉勝幸議員。

○議員（9番　坪倉　勝幸君）　農業振興、町内の基幹産業の農業でありますので、人と農地の問題を中心として、所得の向上に取り組んでいただきたいと思います。

次の求人と求職のミスマッチの件でありますが、これも度々取り上げておりますが、ショートタイムワークのおしごとバンクでは、根本的な解決にならないと思うわけですよね、あくまでも基本がショートタイムワークですから。事業者として、福祉であったり林業、農業、建設業者、それぞれ求人がありますけども、ショートタイムワークでは最終的な結論にならないと思います。ですから、これまでにも提案しておりますように、

ショートタイムワークをするだったら、本当に町立のハローワークでもっと町内外、町外を含めた取組を展開したほうがいいではないかなと思いますが、どうでしょうか。

その中で、やっぱり各事業所が、町の支援も必要なのかもしれませんが、インターン制度、これもどんどん入れるべきだと思います。まず日南町に来てもらう。暮らし方を含めた働き方をまずインターンで知ってもらう。そういった取組をどんどんすることによって、求人といいましょうか、働き手の確保、移住定住につながるじゃないかなと思っております。そのことは、平成３０年のアンケートの取りまとめの中で触れておられるんですよね。暮らし方を含めたビジネスモデルの提案、町の特性を生かした企業誘致の推進、こういった形で触れられておられます。私が先ほど言ったのとは若干違いますけども、だけどもインターンシップなどを、制度をどんどん各企業にしてもらって、まず日南町に来てもらう。仕事を知ってもらう。あるいは町内の方々にも体験をしてもらうことによって、その仕事のやりがいとか、あるいは苦労する面とか、そういったところをどんどん知ってもらう活動が必要ではないかなと思います。子供たちを中心にしたおしごとキッズあたりも将来的に有効になるかもしれませんけども、取りあえず本当に人がいないです、事業者側としては。創造的過疎と言いながら、なかなか人が増えてこない、社会人口が増えてこないという実態があるので、インターン制度っていうのをどんどん広めてはどうかと思います。具体的な提案しますけども、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　前段のといいましょうか、おしごとバンクのお話ですけども、具体的に今３回をさせてもらっておりますが、最終的な目標としましては、やはりソフト的な仕組みづくりも含めてやっていきたいというのが目標値にしておりまして、現時点では、その前の助走の段階の、具体的に企業の皆さんとか、働きたいというところの皆さんを、どれぐらいあるか、あるいはマッチングができるかっていうところで今、ある意味では、試行じゃないんですけれども、助走段階というふうに御理解いただければなと思っております。最終的にはこういった交流会ではなくて、仕組みとしてこういう、いわゆる議員おっしゃられるように、町としての、どういいましょうか、バンクみたいなところのイメージがありますけれども、それを仕組みとしてつくっていきたいというのが目標であります。ですから、登録して求める人と、それを見た段階で町民の皆さんが、ああ、私はここには加わりたい、バイト的なところをしたいっていうところにつなげていきたいなというのが最終的な目標にしておりますので、そういったところは御理解いただければというふうに思っております。

インターンシップって話もありましたけれども、そのことは当然必要かなというふうに思っておりまして、最後のところで申し上げたというふうに思っておりますが、協力隊のところで申し上げたと思いますが、そういったインターンシップもしながら、あるいはその前に、やはり町として、町を知ってもらうっていうことの取組も同時に必要ではないのかな、その段階で、本当にこの町で住みたい、仕事をしたいっていうところの

確率を高めていくっていうことにつなげていきたいというふうに思っておりますので、どういいましょうか、インターンシップという、どこの段階でどこをどうするかっていう話はこれから詰めないといけない部分もあるかもしれませんが、基本的な考え方とすれば、同じような考え方かなというふうには思っております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　地域おこし協力隊のインターンシップについては触れられましたが、それでこのミスマッチのところで言いました私の課題とは少し違うと、対象者が違うと思ってますので、積極的な取組をお願いしたいと思いますが。例えば、シルバー人材センターについても、契約型、雇用型、派遣型とかっていう話も以前したことがありますけども、そういったものを含めて、やっぱり町立ハローワークというような形で、本当に町内の働く人の問題、住まいの問題、事業者の人材育成の支援、そういったところを併せて町立ハローワークで一括してやる窓口っていいましょうか、取組っていうのもぜひ検討をいただきたいと思います。

来年度からシルバー人材センターも消費税法のインボイス制度の該当になって、シルバー人材センターで働く人が委託者、シルバー人材センター通せばインボイスが必要になるので、委託者と直接契約して、直接現金の取引をしなくちゃいけないっていうふうになるというふうに聞いております。日南町の場合、まだ1,０００万にならんのでいいのかもしれませんが、ちょっと日南町の場合、該当になるかどうか確認までしてませんが、そういったこともなると、ますますシルバー人材センターの働き手といいましょうか、少なくなる気もいたします、直接お金のやり取りしなくちゃいけないわけですから。そういったことも含めて、町立のハローワークっていうのをぜひ提案をしておきたいと思います。

それと、地域おこし協力隊については本当に、今現在、日南町は募集をされておりません。全国で今４００名程度の募集がされておりますけども、どういう形で募集をされようとしてるのか、伺いたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　島山企画課長。

○企画課長（島山　圭介君）　企画課で今年度から取り組んでおります２つの地域おこし協力隊につきましては、年が明けた段階で、また活動支援団体をまずは募り、その後、また募集をかけていきたいと。新年度４月１日からの採用を２名程度で予算のほうをお願いしたいというふうに考えておるところでございます。また、今年応募ありませんでした企業支援型につきましても、募集のほうをしていきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　年明けから募集を始めて４月っていうのは、非常に短いと思うわけですね。９月議会で意見も出したと思いますけれども、債務負担行為などをしっかり取って、通年して募集をするとかということも取組が必要だと思います。それ

で、募集に対して、狙った層に突き刺さるアピールが必要だと言われております。それは書物に書いてありますけども、やっぱりそのＰＲの仕方が不十分だと思うわけですね。企画課なり役場の職員で、そういったところが本当にもっとスキルアップしていただきたいと思うわけですけども、一つの手法として、やっぱり広告会社とかプロのインフルエンサーとか、そういったものを使うっていうのも事例として挙がっております。やっぱり漠然と町のホームページに掲げておるだけでは、それから全国の地域おこし協力隊に自動で登録されますけども、そういったものだけではなかなか来てくれない現状があります。もう全国で引っ張り合いですから。狙ったターゲットに突き刺さる情報の提供っていうのは、今言われておりますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　島山企画課長。

○企画課長（島山　圭介君）　議員おっしゃるとおりだと思います。もう本当に今、全国の自治体が本当にちょっと過激とも取れるぐらいの募集の広告かけてます。近くの町なんかでいうと、本当もう定住しなくていいんですっていうような感じのキャッチコピーで募集をされているようなところもあったりするぐらい、いかに来てくださる方の目につくかというところが重要だというふうに考えております。いただきました意見は、新年度予算のほうで検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　来年度の予算編成についてでありますけども、町民の生命・健康と暮らしを守ることを最優先とするというふうに答弁要旨頂いておりました。今日の答弁で、グリーンＤＸとか、今後のまちづくりに取り組むことについても触れられましたが、でも最優先がこれなんですよね。町長として、やっぱりもう少し骨太の方針が欲しいわけですよ。これ命と健康、暮らしを守るっていうのは、もう地方自治体として最低限、これしなくちゃいけないんですよ、地方自治法によっても地方自治体の使命は住民福祉の向上ですから。当然しなくちゃいけないことでありますし、ベーシックサービスなんですよね。だから、これが最優先って言われると、非常に寂しいです、これ当然の義務ですから。だから、この上に立って何をしていくのかというところが欲しいわけですけども。

　もう一つは、共創・協働であります。私は、近藤議員の質問にもありましたが、まず協働が先だと思うわけです、町民と、住民との。共創っていうのは、言われたように大学とか企業とか町の外部組織との連携っていうのが一般的に、一般的っていうか共創の定義ですから。まずそこを重点にまちづくりに取り組んでいただきたいと。語呂合わせっていうか、言葉繰りの関係で共創・協働のほうが言いやすかったからそうされたのかもしれませんが。創造的過疎のまちづくり、総合戦略に掲げておられる。この創造的過疎っていうのは、神山町のＮＰＯ法人グリーンバレーの大南信也さんがつくられた言葉でありますけども、それはそれとして、やっぱりこれに向かうには、まず開かれた地域

づくりに取り組む地域住民が一番なんで。その次に、地域で自ら仕事をつくろうとする移住者、ワーク・イン・レジデンスという言葉でグリーンバレーは取り組まれておりますけども。その次に、何かしら地域に関わりたいと思っておられる関係人口。そして、その次には、やっぱりそれらの活動をサポートしたいって言われる企業、ＮＰＯ法人。そういう輪のだんだんっていうのが、明治大学の小田切先生も言われております。そういった視点に立って、やっぱりまず町民と徹底した話合い、まちづくりに対して。そして、その中からまちづくりを進めていく。そして、その輪に移住者も加わってもらう。呼び込んでいく。そして、大学や企業にも応援をしていただくという形をベースに組み立てていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　一般質問の来年度の事業計画、予算編成の方針というところでありましたので、ちょっと今年度はね、御案内のように１１月の４日に予算編成の説明会をさせていただいておりますので、ちょっと選挙っていうところがあった関係もありまして、前年度を踏襲した形、あるいは今、目の前にあります課題というところをベースに、職員の皆さんにはこういう方針として伝えさせていただいたということであります。ですから、ちょっと言い訳的な話になるのかもしれませんが、議員おっしゃられるように、現時点の段階では、また具体的な予算編成させていただきますので、こういった私の公約的な中身的なところも予算編成には、部分的には加えていきたいなというふうに思ってますので、その辺はちょっと御理解いただければというふうに思ってます。

　また、共創・協働の話もいただきましたが、特に順序っていうところを考えて言っているわけではなくて、全体のイメージとして、語呂合わせを特に考えたつもりはありませんけれども、こういった考え方の中でまちづくりを進めたいと、そういうことのというイメージで御理解をいただければなというふうに思っております。今までも関係人口あたりをどんどんつくらせていただいているというふうに思っていますし、さらにそれを伸ばしていかないといけない。その中で町としての関わり方というところは様々な流れがあるというふうに思っておりますので、そういった全体的なイメージとして捉えていただくとありがたいなというふうには思っております。いろいろな皆さんが、先ほど小田切さんのお話もありましたが、そういった、いわゆる地方の行政、あるいは、どういいましょうか、まちづくりっていうところで様々な皆さん方の御意見をいただいております。活性化センターの椎川さんともいろんなお話をさせていただいておりまして、考え方っていうところは、どういいましょうか、情報共有したり、私のほうもいろんな様々な勉強もこれからもしていきたいというふうに思っておりますが、いずれにしても、ある程度共通部分っていうのはあるのかなというふうには思っていますし、そういったことを考えながら、取り入れながら、これからのまちづくり進めていきたいというふうに思っておりますので、皆さん方ともまた様々な意見交換、あるいは議論をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　少し具体的に触れたいと思いますけども、予算編成の中で行財政改革実施計画、これ当然しんしゃくされると思いますけども、４年度段階でどの程度、計画全体としての進捗は図られていますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今、行革の委員さんにもお世話になりながら、具体的な内容についての、どういいましょうか、意見をいただいてる最中でありまして、それを１２月中にはまとめながら、予算編成の段階で改めて確認をしていきたいというふうに思っていますし、また、あわせて、どういいましょうか、様々な補助金等もありますので、そういったところを小まめにやはり、点検って言やあおかしいですが、検証、継続なのか見直しなのか、場合によっては廃止っていうところも含めて予算編成の中で取りまとめをしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　９番、坪倉勝幸議員。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　それともう１点は、公共施設等管理計画であります。中村町長がこの計画をつくられて進めておられますけども、実のところ４年度はほぼこの管理計画を無視をされております。管理計画で７億6,８００万、４年度投資する計画になっておりましたが、個別計画の積み上げで、ほぼできておりません。高齢者生産活動センターとか、文化センターとか、かすみ荘とかできてません。５年度も今の段階で３億9,０００万、計画で積み上げされております。これらあたりを本当に着実にされるのか、考えがあるのか、長期的な目で見た公共施設等管理計画であり、その１年の経費が１０億円を超えないっていう財政目標の中でこういった計画を、長寿命化なり大規模改修っていうのを上げておられます。そうすると、やっぱり将来に向けて……。

○議長（山本　芳昭君）　坪倉議員、時間が参りました。簡潔にまとめてください。

○議員（９番　坪倉　勝幸君）　ところで、具体的な来年度の予算編成に取り組まれるべきと思いますが、いかがですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には、公共施設整備計画につきましては計画として計上し、それを参考じゃないですが、突合、そういう形の横との突合っていうところも今回の中で改めてするっていうスケジュール感も持っておりますので、改めて内容の精査っていうところは大事なところだというふうに思っておりますので、見直しも含めて再検討の事務を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　以上で坪倉勝幸議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会にしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本　芳昭君）　異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定しました。

ついては、明日１２月９日の本会議は別に通知をしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いします。

本日はこれで散会します。長時間お疲れさまでした。

午後４時０３分散会